

# 平成22年度事業報告

## 1. 会勢報告

{ 総務担当：八田 一利 }

### 【総 数】

(単位：人)

会 員	平成22年4月1日	平成23年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,860	1,849	111	122

会員資格  
変更

正会員:	1,733	1,721	87	109	-22	+10
準会員:	127	128	24	13	+11	-10

### 【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成22年4月1日	平成23年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ( ) : 支部間 の移動
北 海 道	52	49	1	4	-3(0)
東 北	61	63	5	2	+3(-1)
関 東	1,042	1,044	58	59	-1(+3)
東 海	166	162	9	11	-2(-2)
関 西	323	311	19	33	-14(+2)
中国・四国	120	126	12	7	+5(+1)
九州・沖縄	77	77	7	5	+2(-2)
国 外	19	17	0	1	-1(-1)
賛 助 会 員	37社 38口	36社 37口	1社 1口	2社 2口	-1社 -1口

## 2. 事業報告

{ 総務担当: 八田一利 }

- (1) 平成22年定時社員総会及び第7回理事会にて一般社団法人日本人間工学会第2期（平成22年6月～24年6月）の体制が承認され、その活動を開始した。従来の活動を継続したほか、平成22年度は、臨時委員会・担当として、薄型テレビの視聴条件に関する人間工学ガイドライン検討委員会、国際人間工学連合/PSE担当、子ども人間工学委員会、研究倫理審査検討委員会を、研究部会として安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会を新設した。また、関西支部の協力を得て公開講座を初めて関西地域（大阪工業大学）にて開催したほか、第51回大会において安全人間工学委員会の企画による学会企画パネルディスカッション「安全人間工学再興」を開催した。このほか、事業内容の見直しや規程等の整備を継続的に行った。  
平成23年3月の東日本大震災では、本学会でも東北支部はもとより委員会、支部、部会の活動に多大な影響を受けた。学会では急遽学会ホームページや学会誌を使って、社会に対しメッセージを発信した。なお、東日本大震災被災に対し、海外から数多くのお見舞いをいただいたことに深く感謝する。
- (2) 第1回の定時社員総会（名称：一般社団法人日本人間工学会平成22年定時社員総会）を平成22年6月19日に北海道大学において開催し、平成21年度事業報告・収支決算、第2期理事及び監事の選任、平成22年度事業計画・収支予算を審議し、決定した。
- (3) 第51回大会を横山真太郎大会長のもと、平成22年6月19～20日に北海道大学で開催した。また第52回大会を河合隆史大会長として平成23年6月6～7日に早稲田大学で開催することを決定した。
- (4) 理事会を5月8日、6月18日、6月19日、10月22日、2月22日の計5回開催した。
- (5) 機関誌「人間工学」の第46巻2～6号及び第47巻1号の計6冊を発行した。
- (6) 人間工学専門家認定機構は、各種の専門家資格の試験を実施した結果、認定試験(A方式試験)合格者7名、筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B方式試験)合格者6名、準専門家合格者22名を新たに得た。その結果、平成22年度末現在の認定人間工学専門家は161名、準専門家67名、アシスタント6名となった。このほか、定期総会、講演会、シンポジウム、セミナーを開催し、会報を4回発行した。
- (7) 以下の常設委員会・担当及び臨時委員会・担当において各事業を積極的に進めた。
  - 7-1) 広報委員会  
学会内外での広報活動のほか、学会ホームページのリニューアル及び英語化、グッドプラクティスデータベース（GPDB）工芸部門の新設、学会案内リーフレット作成、第51回大会でのシンポジウム及び「学生・企業の架け橋プロジェクト」実施、公開講座2010の開催企画支援を行った。
  - 7-2) 編集委員会  
学会誌の定期発行と内容の充実、編集委員会の開催、投稿規程改定のほか、査読方法の見直しと迅速化を図った。なお、本年度は投稿論文53編を受け付け、年度内に査読を終了した論文は38編、うち採択されたのは17編（採択率45%）であった。
  - 7-3) 国際協力委員会  
IEA理事会(10月10～11日、Bruges/Belgium)への出席及びPSE委員長への協力、日韓ジョイントシンポジウム2010（ESK/JES、5月14日、Daejeon/Korea）への協力、「人間工学」誌での各種国際行事への参加報告等を行った。なお、日韓交流への貢献に対し大韓人間工学会より日本側の基調報告者と国際協力委員長が表彰された。
  - 7-4) ISO/TC159国内対策委員会  
FDIS、DIS等の規格原案に関する計39件の投票を行うとともに、国内委員会の開催及び国際会議出席によって8件のISO規格の発行に寄与した。
  - 7-5) 表彰委員会  
平成22年度功労賞、大島正光賞、研究奨励賞、優秀研究発表奨励賞等の運営業務を行うとともに、既設表彰制度規程の改定と新規表彰制度の検討及び規程策定、IEA及び日韓シンポジウム関連の表彰の準備・対応、ホームページ開設を準備した。
  - 7-6) 日本学術会議担当  
日本学術会議からの情報の学会ホームページへの掲載、安全工学シンポジウム2010（7月8～9日、東京）開催へ

の協力等により、日本学術会議との連携強化、関連学術団体との連絡及び協力を進め、人間工学の普及に努めた。

#### 7-7) 横断型基幹科学技術研究団体連合担当

横断型基幹科学技術研究団体連合シンポジウム(9月5~6日、東京)への参加のほか、当学会の担当者が編集委員長となり、会誌「横幹」の編集、発行を行った。特に第5巻1号では「人間工学分野における横幹的取り組み」を特集した。

#### 7-8) 薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会

フラットパネルディスプレイの人間工学シンポジウム(3月4日、電子情報技術産業協会主催、日本人間工学会協賛)にて、「テレビ視聴に関する人間工学ガイドライン策定へ向けて」と称するセッションを設け、ディスプレイ業界に本委員会の設立紹介、協力要請及び薄型テレビの人間工学に関する研究紹介を行った。

#### 7-9) 国際人間工学連合/PSE担当

IEAのPSE委員会は、専門家認定制度の国際相互認証、良好事例の教育利用、各国の人間工学教育プログラムにかかわるディレクトリーの見直しに取り組んだ。これらには、グッドプラクティスデータベースの利用その他、JESの貢献が大きい。また、発展途上国支援活動の一環として実施しているニカラグア向けCoffee Bagプロジェクトは、JESの財政支援の下、著しい成果を得た。

#### 7-10) 子どもの人間工学委員会

ホームページの作成のほか、第51回大会にて「子どものために人間工学ができること」、関東支部第40回大会にて「子供を育み育てる人間工学」と題する企画セッションを開催した。

#### 7-11) 研究倫理審査検討委員会

人間工学研究における倫理審査を外部委託することについてのニーズの調査及び既に研究倫理審査を請け負っている学会の状況及び審査体制等の調査を実施し、本学会が研究倫理審査委員会を持つことの是非や、持つ際の必要条件等について検討した。

#### 7-12) ニーズ対応委員会

Webサイト等を活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を検討し展開した。具体的には、グッドプラクティス・データベースへの工芸部門設置のほか、ニーズ把握、国内外への発信、産学官民協同連携支援、若手人材育成支援等を行った。

#### 7-13) 安全人間工学委員会

安全人間工学研究部会立ち上げに寄与するとともに、第51回大会にて「安全人間工学再興」と題する学会企画パネルディスカッションを開催した。

#### 7-14) 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

人間工学教育のあり方についての分析、教育実践のための教育資料作成準備等を行った。

#### 7-15) テレワークガイド委員会

テレワークにおける人間工学的な工夫・配慮事例を収集し検討するとともに、日本テレワーク協会と相互リンクを実現し、JESのHP等で公開しているガイドラインの普及に努めた。また、第52回大会でのシンポジウム「テレワークの健全な発展へ向けての人間工学の役割」の準備を行った。

#### 7-16) 人間工学技術戦略委員会

本委員会は、IEA2006や2007年の日韓シンポジウムにおける発表ほか対外発信活動を重ねてきた。今後、取り組むべき事項が明らかとなった時点で活動を再開することとし、次年度(平成23年度)は活動を一時停止とする。

#### 7-17) 文科省科研費担当

科研費に関する学会員の応募実績と要望等の分析(ニーズ対応委員会と共同)及び大学等における人間工学教育と研究の現状調査の結果に基づき、総合領域の分科に「人間工学」を設定するよう提案すべく、提案書を8月に日本学術振興会に提出した。

#### 7-18) 第51回大会担当

大会企画シンポジウム、特別講演、学会企画パネルディスカッションのほか、公募シンポジウムやフォーラムを8件開催した。一般の発表では、新たに導入したハイブリッド発表112題、口頭発表78題の一般発表が行われ、約450名の参加者を得て盛会であった。

(8)支部、部会

北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州・沖縄の計7支部と、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、システム大会部会の計12研究部会が、多彩な活動を行った。

(9)12月5日の関西支部大会（大阪工業大学）に合わせ、学会主催、安全人間工学研究部会と臼井伸之介大阪大学教授の企画による公開講座2010「事故防止のヒューマンファクターズ・アプローチ - 第一線からの防止対策の紹介 - 」を開催した。

(10)平成22年度日本人間工学会功労賞24名、研究奨励賞の受賞論文（1件）、優秀研究発表奨励賞（5件）の表彰を行った。

(11)関連学術団体等と、40件の共催・協賛・記事掲載等を行った。

(12)学会事務局では、管理業務の見直しを行い効率化と経費節減を図った。また、学会HPにて迅速な情報提供に努めた。

### 3.担当・委員会活動

#### [常設委員会・担当]

##### 3-1.広報委員会

{委員長：吉武 良治、副委員長：下村 義弘}

平成22年度もニーズ対応委員会等と連携し、事業計画に掲げた活動を中心に、積極的に広報活動を行った。特に平成22年4月に全面的にリニューアルオープン（第1次）したホームページに関して、運用プロセスの整備、機能追加、コンテンツ追加などを段階的に推進した。主な活動は以下の通り。

(1)平成19年度に開設したグッドプラクティスデータベース（GPDB）に関しては、積極的に広報、募集、維持・管理を継続し、普及を推進した。今年度より工芸部門の運用をスタートした。現在、英語への翻訳作業を行っており、GPDBの英語版サイト公開の準備を進め、平成23年度には公開予定である。また、国際人間工学連合（IEA）PSE担当・藤田氏、ニーズ対応委員会と連携し、IEA活動への支援を行った。

(2)第51回大会にて、ニーズ対応委員会との共催シンポジウム「日本人間工学会の新たな挑戦 - 産学官民連携支援と社会へ向けた情報発信 - 」を実施し、盛況であった。

(3)平成20年度にスタートした「学生・企業の架け橋プロジェクト」に関しては、本年度もさらに推進し、第51回大会にて実施し、盛況であった。

(4)関西支部大会の中で実施した公開講座2010の開催企画を支援した。

(5)入会案内、入会申込書を兼ねた日本人間工学会のご案内リーフレット（A3サイズ）を作成し、ホームページに掲載した。また、第51回大会にてリーフレットを配布した。

(6) 榎出版社リアルデザイン2010年9月号の特集「人間工学とデザイン」の編集に際して協力依頼があり、人間工学の考え方の解説、人間工学専門家の紹介等にて協力した。

(7)ホームページのリニューアル及び運用プロセスの整備を推進した。ニーズ対応委員会と連携し、コンテンツ追加、機能追加を順次実施した。ウェブサイト運用マニュアル（平成22年12月15日）を作成し、お知らせの掲載などは学会事務局にて更新する体制をスタートさせた。第2次リニューアルがほぼ実施済みであり、平成23年度には第3次リニューアル（会員サイトの作成等）を段階的に進める予定である。

(8)ホームページを活用し、重要ニュースのお知らせ、学会主催/協賛等のイベントの案内などを広報した。以下に掲載ニュース例を示す。

- ・東日本大震災被災者へのお見舞いと人間工学の役割 - 日本人間工学会からのメッセージ -
- ・本学会に関連した学術会議情報、横幹連合情報などの掲載
- ・「人間工学 ISO/JIS 規格便覧 2010」の掲載

### 3-2. 編集委員会

{委員長：小松原 明哲、副委員長：三澤 哲夫}

#### (1) 学会誌「人間工学」の編集・発行状況

- 1) 平成 22 年 4 月：第 46 巻 2 号(114 ページ)  
総説 1 編、原著 9 編、短報 2 編、紹介コーナー 1 編 他
- 2) 平成 22 年 6 月：第 46 巻 3 号(62 ページ)  
原著 5 編、短報 1 編、資料 1 編 他
- 3) 平成 22 年 8 月：第 46 巻 4 号(48 ページ)  
原著 1 編、短報 4 編、技術報告 1 編、紹介コーナー 2 編 他
- 4) 平成 22 年 10 月：第 46 巻 5 号(48 ページ)  
原著 3 編、短報 2 編、紹介コーナー 1 編 他
- 5) 平成 22 年 12 月：第 46 巻 6 号(58 ページ)  
原著 3 編、短報 2 編、紹介コーナー 2 編、書評 他
- 6) 平成 23 年 2 月：第 47 巻 1 号(50 ページ)  
原著 4 編、短報 1 編、紹介コーナー 1 編 他

#### (2) 編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催した。

#### (3) 投稿数および査読者数

投稿された原稿数とそれに対する査読依頼者数は以下のとおりであった。平成 22 年度の投稿総数は 53 編、査読者数は 114 名であった。

- 1) 平成 22 年 5 月(第 1 期第 18 回委員会 前年度の受付分を含む)  
投稿数 8 編(原著 7 編、短報 1 編)：査読依頼者数 21 名
- 2) 平成 22 年 7 月(第 2 期第 1 回委員会)  
投稿数 10 編(原著 6 編、短報 4 編)：査読依頼者数 21 名
- 3) 平成 22 年 9 月(第 2 回委員会)  
投稿数 6 編(原著 5 編、短報 1 編)：査読依頼者数 16 名
- 4) 平成 22 年 11 月(第 3 回委員会)  
投稿数 9 編(原著 7 編、短報 2 編)：査読依頼者数 23 名
- 5) 平成 23 年 1 月(第 4 回委員会)  
投稿数 9 編(原著 7 編、短報 2 編)：査読依頼者数 22 名
- 6) 平成 23 年 3 月(第 5 回委員会)  
投稿数 9 編(総説 1 編、原著 3 編、短報 2 編、資料 2 編、技術報告 1 編)：査読依頼者数 18 名

#### (4) 学会誌に掲載する情報の充実

第 1 期からの継続として、研究部会に対して当該領域の「総説」を勧誘している。また、第 41 巻 4 号より設けられている学会誌「紹介コーナー」を継続し、研究室等紹介、学会等への参加記録、活動記録、書評などを掲載している。

#### (5) 編集委員会のホームページ更新

第 2 期編集委員会のホームページを更新した。投稿用紙はホームページ内の編集委員会ページよりダウンロードできる各種電子版書式を掲載した。

#### (6) 投稿規程の見直し

学会誌に掲載された論文等の著作権の利用等について、投稿規程を改定した。

#### (7) 査読期間の短縮

迅速な査読を心掛けるため、平成 16 年 10 月(第 16 期編集委員会)から続けている副査の査読期間短縮(従来 1 ヶ月であったものを 2 週間に短縮)を継続した。なお、投稿原稿の受付から掲載可となった期間は最短で 4 ヶ月、その平均は 6~7 ヶ月(前年度は 6~7 ヶ月)であった。

(8) 投稿原稿の採択率

第1期と第2期編集委員会が平成22年度に受付けた投稿原稿は53編で、採否の結果がでた投稿原稿38編のうち、採択されたのは17編(採択率44.7%)であった。なお、筆頭著者が学会員の投稿原稿43編中、採否の結果がでた投稿原稿25編のうち、採択されたのは13編(採択率52%)で、筆頭者が非学会員の投稿原稿10編中、採否の結果がでた投稿原稿8編のうち、採択されたのは2編(採択率25%)であった。

(9) その他

- 1) 大島正光賞・研究奨励賞について表彰委員会との関係を明確化した。
- 2) J-STAGEへの電子化作業について、学会本部との関係を明確化した。

### 3-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典、副委員長:小谷 賢太郎}

(1) IEA 理事会:平成22年10月10日~10月11日 Bruges(Belgium)

学会から堀江委員長・大須賀委員・鳥居塚委員が出席。大島名誉会長をはじめ逝去されたIEA fellowの方々への黙とうから始まり、各国の年次活動報告として日本からは学会誌のアーカイブ化、人間工学グットプラクティスデ-タベ-ス、JESロードマップの進捗状況などを中心に報告した。

(2) 委員会開催

担当理事による会合を4回開催。その他E-mailによる緊密な連絡を実施

(3) 理事会審議・報告

IEA PSE 委員長:藤田祐志氏への国際協力委員会としての協力など

(4) 国際交流

・日韓ジョイント・シンポジウム2010, Daejeon, Korea:平成22年5月14日

JES関係者13件発表。基調報告をされた土居俊一香川大学教授(中四国副支部長)、および堀江国際協力委員長が大韓人間工学会よりESK/JESの交流へ貢献したとして表彰された。

(5) 国際活動関連記事

第46巻4号 日韓人間工学会合同シンポジウム参加報告(前川正実)

第46巻5号 AHFE2010参加報告(細野直恒、山本 栄)

第46巻6号 2010年IEA理事会参加報告(大須賀美恵子、鳥居塚 崇、堀江良典)

第46巻6号 1<sup>st</sup> European Conference on Ergonomics参加報告(栗谷川幸代)

### 3-4 . ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志、副委員長:吉武 良治}

(1) 委員会開催、国際会議出席状況

- ・国内委員会:全体会議4回、分科会38回
- ・国際会議出席状況:25回の国際会議に延べ148名出席

(2) 発行規格、投票

<新ISO規格>:8件

・ISO 20685:2010 3-D scanning methodologies for internationally compatible anthropometric databases

・ISO 9241-129:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Part 129: Guidance on software individualization

・ISO/TR 9241-310:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Part 310: Visibility, aesthetics and ergonomics of pixel defects

・ISO/TS 18152:2010 Ergonomics of human-system interaction -- Specification for the process assessment of human-system issues

- ・ ISO 24503:2011 Ergonomics -- Accessible design -- Tactile dots and bars on consumer products
  - ・ ISO 24500:2010 Ergonomics -- Accessible design -- Auditory signals for consumer products
  - ・ ISO 24501:2010 Ergonomics -- Accessible design -- Sound pressure levels of auditory signals for consumer products
  - ・ ISO 24502:2010 Ergonomics -- Accessible design -- Specification of age-related luminance contrast for coloured light
- <投票> : FDIS9 件、DIS 4 件、CD 3 件、SR 15 件、NWIP 5 件、WD3 件

### (3)分科会活動

- |                                    |          |                     |
|------------------------------------|----------|---------------------|
| ・ SC1(人間工学の一般原則)&WG                | 主査: 青木和夫 | 分科会 0 回開催 (メール審議のみ) |
| ・ SC3(人体寸法と生体力学) &WG               | 主査: 横井孝志 | 分科会 2 回開催           |
| ・ SC4(人間とシステムのインタラクション) &WG&SG     | 主査: 山本 栄 | 分科会 22 回開催          |
| ・ SC5(物理的環境の人間工学) &WG&SG           | 主査: 栃原 裕 | 分科会 4 回開催           |
| ・ TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学) | 主査: 佐川 賢 | 分科会 2 回開催           |
| ・ JIS 分科会                          | 主査: 米村俊一 | 分科会 8 回開催           |

## 3-5.表章委員会

{委員長:阿久津 正大、副委員長:矢口 博之}

### (1)委員会開催状況

委員会を4月24日(電子メール委員会)、6月19日、8月26日、12月20日に開催した(3月19日に予定していた委員会は東日本大震災により中止)。そのほか随時電子メールで討議を進め、下記について活動を行った。

### (2)活動内容

#### 1)表章制度の改定、新設について

- ・ 選考方法の変更に伴い「大島正光賞選考及び授与規程」、「研究奨励賞選考及び授与規程」の改定案、及び両賞の「選考及び授与規程細則」の新規案を理事会に上申した(これらの選考及び授与規程、同細則は、第9回理事会 2011年2月22日 で承認、「大島正光賞選考及び授与規程」については同日付で改定、「研究奨励賞選考及び授与規程」については2011年4月1日付で改訂)。
- ・ 「日本人間工学会論文賞選考及び授与規程」案、同賞の「選考及び授与規程細則」案を策定し、理事会に上申した(日本人間工学会論文賞選考及び授与規程、同細則は、第9回理事会 2011年2月22日 で承認、同日付で施行)。

#### 2)大島正光賞について

- ・ 平成23年度大島正光賞について受賞候補論文を選考し、選考結果を理事会に上申した。

#### 3)日本人間工学会研究奨励賞について

- ・ 平成22年社員総会において、平成22年度研究奨励賞の授与式を行った。受賞論文は、「難易度の異なる計算課題遂行時における感情変化と生理反応の関係(筆頭著者: 曾我知絵氏、共著者: 三宅晋司氏、和田親宗氏)」であった。
- ・ 平成23年度研究奨励賞について受賞候補論文を選考し、選考結果を理事会に上申した。

#### 4)日本人間工学会功労賞について

- ・ 平成22年社員総会において、平成22年度(第3回)日本人間工学会功労賞受賞者に対する授与式を行った(24名受賞、このうち12名が授与式に出席)。また平成23年度(第4回)功労賞の受賞候補者を選考し、理事会に上申するとともに、表彰の準備を進めた。

#### 5)日本人間工学会優秀研究発表奨励賞について

- ・ 第51回大会において平成22年度優秀研究発表奨励賞の受賞者を選考し、理事会に上申した。また受賞者5名に賞状を授与するとともに、運営業務にE-mailの活用等、効率化を図った。
- ・ 第52回大会での研究発表者が受賞対象となる平成23年度優秀研究発表奨励賞の広報と選考準備を進めた。

- 6) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。また国際協力委員会と表彰委員会の合同 WG を立ち上げ、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みについて検討を進めた。
- 7) 日韓シンポジウム関係者の表彰について対応し、表彰の準備を進めた。
- 8) 表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関する情報を収集した。
- 9) 人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設に向けて検討を進めた(本事業は広報委員会との連携事業である)。
- 10) 表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

### 3-6. 日本学術会議担当

{担当:大須賀美恵子、芳賀 繁、青木 和夫}

#### (1) 日本学術会議との連携の拡充

日本学術会議から発信される情報は適宜日本人間工学会の HP に掲載し、連携強化に努めた。

#### (2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムへの協力

安全工学シンポジウム 2010 (幹事学会:安全工学会、2010年7月8日、9日、日本学術会議)の実行委員会に参加し開催に協力した。

特別講演「東海・東南海・南海地震の連動発生による強い揺れと津波の予測・災害軽減」古村孝志(東京大学)  
「医療の安全確保は医療の質向上から 医療安全概論として」飯田修平(練馬総合病院)

#### パネルディスカッション

- 「自動車、鉄道、航空、船舶の各交通モードにおける安全対策の比較による高安全度交通システムの実現」
- 「安全を大切に作る組織文化」
- 「交通事故半減に向けた課題の抽出と提言」
- 「リコールを巡る諸問題」

オーガナイズドセッション 13 セッション

一般セッション 52 題

### 3-7. 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、加藤象二郎、酒井 一博、山本 栄}

#### (1) 総合シンポジウムへの参加

横断型基幹科学技術研究団体連合第3回総合シンポジウム(2010年9月5~6日、東京)及び会長懇談会に参加した。

#### (2) 会誌「横幹」の編集

会誌「横幹」第4巻第1号(ミニ特集「経営高度化への横幹的取り組み」)第2号(ミニ特集「社会デザイン」)第5巻第1号(ミニ特集「人間工学分野における横幹的取り組み」)を発行した(編集委員長:青木和夫)。  
第5巻第1号のミニ特集記事は以下の通り。

- 1) 人間工学と横断型基幹科学技術: 青木和夫(日本大学)
- 2) 鉄道分野における人間工学研究と横幹的アプローチ: 鈴木浩明(鉄道総合技術研究所)
- 3) 航空システムにおける人間工学の役割 -パイロットと航空交通管制官とをつなぐインタフェースについて- : 垣本由紀子(立正大学大学院)
- 4) 人間中心設計プロセスのヒューマンインタフェース設計開発への適用: 福住伸一(日本電気)
- 5) アクセシブルデザインと国際標準化: 佐川賢, 倉片憲治, 横井孝志(産業技術総合研究所)

### 3-8.人間工学専門家認定機構

{ 機構長：青木 和夫 副機構長：福住 伸一 }

#### (1)会員状況(2011年3月31日現在)

人間工学専門家 161名 (H22年度 資格取得者 12名、退会者 11名)

準専門家 67名 (H22年度 資格取得者 19名)

人間工学アシスタント 6名

#### (2)資格認定試験実施状況

資格認定試験(A方式試験)を1回実施、受験8名、合格7名であった。また、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回実施、受験11名、合格6名、審査中1名。準専門家に応募22名、書類審査に22名が合格。

#### (3)定期総会・講演会の開催

総会 日時：2010年4月23日(金) 16:00~17:00

会場：中央大学駿河台記念館 610号室

出席者：19名、委任状：79名

講演会 日時：2010年4月23日(金) 14:00~15:50

会場：中央大学駿河台記念館 610号室

講演：藤田 祐志 (株式会社テクノバ) 演題：IEAの常設委員長に就任して

山本 雅康 (ソフトバンクモバイル株式会社) 演題：携帯電話事業者からみた携帯電話UI

#### (4)幹事会の開催

第26回 日時：2011年3月9日(水) 17:00~19:00

会場：日本大学理工学部駿河台5号館590会議室

#### (5)役員の任期延長

一般社団法人日本人間工学会の役員任期と合わせるために、1年間任期を延長した。

#### (6)再認定の促進

専門家資格の再認定の必要な会員に対して積極的にはたらきかけを行い、再認定申請に必要な条件を満たすための条件を127名がクリアした。

#### (7)シンポジウムの開催

日本人間工学会第51回大会(札幌)においてシンポジウム「人間工学専門家資格の活用と課題」を行った。

#### (8)CPEセミナーの開催

日時：2010年11月19日(金) 15:00~17:30

会場：いすの博物館 (株式会社 岡村製作所)

講師：浅田 晴之

#### (8)会報作成

会報を4回発行した。

### [臨時委員会・担当]

### 3-9. 薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会

{ 委員長：窪田 悟 }

#### (1)委員会開催

10月22日の理事会で設立が承認され、メールで情報交換を進め、3月23日に第1回委員会が予定されていたが震災の影響で延期となった。

#### (2)活動内容

3月4日に開催されたフラットパネルディスプレイの人間工学シンポジウム(電子情報技術産業協会主催、日本人間工学会協賛、参加者約120名)において、「テレビ視聴に関する人間工学ガイドライン策定へ向けて」と

いう約2時間のセッションを設け、ディスプレイ業界に委員会の設立を紹介し協力を要請するとともに、薄型テレビの人間工学に関する研究の一部を紹介した。委員3名が以下の講演を行った。

- |                          |                    |
|--------------------------|--------------------|
| 1) ガイドライン標準化の是非とその施策     | 東芝モバイルディスプレイ 久武雄三氏 |
| 2) 高色再現評価数の開発と、視野角評価への適用 | ソニー 中枝武弘氏          |
| 3) 液晶テレビの省エネ、画質、視覚疲労     | 成蹊大学 窪田 悟          |

### 3-10. 国際人間工学連合 PSE 担当

{担当: 藤田 祐志}

IEA 常任委員会 (EC=Executive committee) のメンバーとして EC 会議に2回出席した (バリ島、ブルージュ)。今般、IEA はスイス所在の NPO として正式に登録された。ILO、WHO、ICOH などの外部組織との協力関係は順調に進んでいる。発展途上国支援活動の一環として実施しているニカラグア向け Coffee Bag プロジェクトは、JES の財政支援の下、著しい成果を得た。また、PSE 委員会は、専門家認定制度の国際相互認証、良好事例の教育利用、各国の人間工学教育プログラムにかかわるディレクターの見直しに取組み、順調に推移している。これらについては、様々な面で JES が大きく貢献している (グッドプラクティスデータベースの利用など)。

### 3-11. 子どもの人間工学委員会

{委員長: 小松原 明哲 副委員長: 江川 賢一}

- (1) 生活者としての子どもを視座に置いた人間工学の研究課題を明らかとする。
- (2) この領域に関心のある有志からなるメーリングリストを組織し、意見交換を行った。
- (3) ホームページを作成した。  
<http://www.f.waseda.jp/komatsubara.ak/ergochild.htm>
- (4) 企画セッションを開催した (第51回大会: 「子どものために人間工学が出来ること」  
関東支部第40回大会: 「子どもを育み育てる人間工学」)。

### 3-12. 研究倫理審査検討委員会

{担当: 横井 孝志}

本検討委員会では、人間工学研究における倫理審査を外部委託することについてのニーズや既に研究倫理審査を請け負っている学会の状況や審査体制等を調査し、これらをもとに日本人間工学会として研究倫理審査委員会を持つべきかどうか、あるいは研究倫理審査委員会を持つ際の必要条件等について検討した。医学、医療、看護系の学会においては、研究計画の倫理審査を請け負っている場合がいくつか見られた。企業が自社の人間工学研究について倫理審査を外部委託することについては、自社の内部情報や研究内容が外部に漏洩することを懸念しているとの意見が上がった。大学については、研究実施において倫理審査を通過することが必須の状況であるため、今後個々の大学で倫理審査委員会を設置すると推測される。

### 3-13. ニーズ対応委員会

{委員長：榎原 毅、副委員長：岩切一幸}

学会法人化を契機とし、一層の社会的責任を果たすべく、Web サイト等を積極的に活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を検討・展開した。主な活動は下記の通り。

\*1: 広報委員会との連携事業 \*2: IEA/PSE 担当との連携事業

\*3: 国際協力委員会との連携事業

( :実施済、 :進行中、 - :企画検討中)

カテゴリ	活動内容	達成度 / HCD-WG による web 実装
1) 人間工学ニーズの把握	<b>「人間工学に関する疑問・質問」情報の収集と提供</b> (インターネット上で検索されている人間工学関連の質問・疑問情報を解析、学会 web サイト上でそのニーズに回答)	- 継続検討中
2) 人間工学応用の社会への発信	<b>産学官民各セクターの人間工学家インタビュー・コンテンツを学会 web サイト内に提供</b> <b>「ピックアップ がんばる人間工学家！」</b> (学会 HP 内にて、GIAP 各セクターで活躍している人を紹介)	2011/4 Web 運用開始
	<b>人間工学グッドプラクティス・データベース(GPDB)への「工芸部門」の設置*1</b> (伝統の匠の技と人間工学のつながりを紹介、地域産業・伝統工芸の活性化支援と人間工学の普及促進)	2010/7 Web 運用開始
	<b>広報対応委員会との共催シンポジウム「日本人間工学会の新たな挑戦 - 産学官民連携支援と社会へ向けた情報発信 - 」の開催*1</b> (2010/6/20 (日) 10:45-12:00 JES51 大会、於：北海道大学)	
3) 産学官民の協同・連携支援	<b>人間工学の領域・人材・組織・事例を繋ぐリレーショナル・データベースの提供</b> (人間工学領域から学べる大学リストを検索、企業情報から人間工学応用領域を検索など、GIAP 各セクターの横断的・有機的ネットワーク構築を支援する仕組みを web 上に提供)	2011 年中 運用開始予定
4) 人間工学研究の促進 / 交流と活性化策	<b>学術戦略プロジェクトの可能性・展開方法の検討</b> (産学官民連携による取り組みを効果的に支援する枠組みを検討)	- 継続検討中
	<b>人間工学研究支援窓口の提供</b> (学会 web サイト内(会員向けサービス)に、人間工学研究 Tips 集(秘訣集)や人間工学領域で用いられる統計手法・実験計画法などを紹介。また、論文投稿にチャレンジする若手人材・企業実務者をサポートする相談窓口の運用など)	- 継続検討中
5) 人間工学会の魅力発信	<b>各支部大会講演集(抄録)の PDF 公開</b> (各支部講演集は一般刊行物申請されておらず、アクセスするチャンネルがなく、貴重な知見を利用できない。支部抄録 PDF 版を JESweb サイト内にて一元提供するプラットフォームを提供)	2011 年中 運用開始予定
	<b>広報特派員による人間工学関連イベント報告の掲載*1</b>	

	(全国で開催されている人間工学関連イベントを広報特派員が取材、記事を投稿してもらい、人間工学の魅力を学会 web 上から発信)	
	<b>学会メインシンポジウム等のビデオ映像の配信*</b> <sup>1, 2</sup> (全国大会におけるメインシンポジウムや公開講座などを録画し、web 上(会員サービス)から映像配信。JES50, JES51 大会の主要企画・シンポジウムなどの映像撮影済)	2011 年中 運用開始予定
6)若手・次世代 人間工学人材 の育成支援	<b>人間工学キャリア・ビジョンの提供(企業の若手人間工学人材・大学生・院生支援 web コンテンツの整備)</b> (人間工学のキャリア・ビジョンの提供、企業が求める人間工学能力・人材に関する情報の提供など)	2011 年中 運用開始予定
	<b>小中高生を対象とした出前授業・公開講座</b> (出前授業協力者のデータベース整備、中高生向け教育コンテンツの整備)	- 継続検討中
7)国際社会へ の情報発信	<b>学会 web サイト英語版の充実と提供*</b> <sup>1, *3</sup> (日本人間工学会のリニューアル web サイトの英語版制作)	2011/3 Web 運用開始
	<b>国際人間工学連合/PSE 担当の活動支援：IEA 版 GPDB 構築支援*</b> <sup>2</sup> 国際人間工学連合(IEA)Professional Standards and Education(PSE)委員会にて検討を進めている、グッドプラクティスデータベース IEA 版の支援を行った。	継続検討中

### 3-14. 安全人間工学委員会

{委員長：芳賀 繁、副委員長：首藤 由紀}

- (1)平成 21 年度に青木・小松原・首藤・芳賀の 4 委員で発足した安全人間工学委員会は、平成 22 年度から佐相・中西を追加して 6 人の委員で活動した。
- (2)平成 22 年 4 月に安全人間工学研究部会を立ち上げた。研究部会の幹事は安全人間工学委員会の委員が兼務した。
- (3)平成 22 年 6 月の日本人間工学会第 51 回大会において「安全人間工学再興」と題するシンポジウムを開催した。企画・司会は青木委員が務め、首藤・小松原・芳賀の 3 委員が講演とパネルディスカッションを行った。

### 3-15. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会

{委員長：酒井 一博、副委員長：易 強}

- (1)副委員長(易強、静岡県工業技術研究所)を選任することで委員会組織の強化をはかった
- (2)21 年度の教育実践の実績をもとに、今後、様々な業種や地域等で展開していくための具体的な教育のあり方について、提案できるように分析を進めた。
- (3)産業現場における安全衛生に関わる人間工学プログラムの開発に努め、教材化への足掛かりとして各委員のネットワークにおいて実践を重ねた。
- (4)20 年度の「企業の人材育成プログラム開発委員会」において作成された報告書をもとに、実践および普及に適した教育資料を作成する計画を立てた。

### 3-16. テレワークガイド委員会

{ 委員長:吉武 良治、副委員長:北島 洋樹 }

#### (1)委員会開催

4回の会議(6月、12月、1月、3月開催)を開催し、随時Eメール等による審議を実施した。

#### (2)活動内容

昨年度の活動の継続にて、テレワークの健全な発展のために人間工学の観点で取り組むべきこと、できることなどを検討する活動を行った。主な活動は以下のとおり。

##### 1)テレワークにおける人間工学的な工夫・配慮事例の収集と審議

本委員会メンバーの多くがすでにテレワーク的な働き方を実践していることから、まずは身近なところで各自がテレワーク(又はテレワークに関連した作業)を行う際に工夫していることや、配慮している事例を収集・整理し、共有・検討した。今後は対象者を広げて事例を収集し、検討・整理・発信することを検討している。

##### 2)現在 JES にて公開しているガイドラインの認知度を高める活動

テレワークに関する情報が数多く掲載されている日本テレワーク協会に対し、日本人間工学会の Web ページとの相互リンク等を働きかけ、現在、団体としての相互リンクは実施済み。ガイドラインへのリンク等については現在、交渉・検討中である。

##### 3)シンポジウム企画

テレワークの現状や課題等をより深く理解し、共有するために、JES 第 52 回大会にてシンポジウムを企画した。2011 年 6 月 7 日(火) 10:00-11:00、早稲田大学にて実施予定。

### 3-17. 人間工学技術戦略委員会

{ 委員長:藤田 祐志 }

本委員会は、2005 年度に始まる準備的活動(技術戦略検討会)に引き続いて 2007 年度に設立された。2006 年には IEA2006 (Maastricht) において JES 技術戦略ロードマップ・ドラフト版を発表して各国から注目を集めた。その後、2008 年には学会員有志によって改定作業が行われ、改定 1 版として JES ホームページに公開されている。その間、2007 年の日韓シンポジウムにおける発表ほかの対外発信活動を重ねた。また、本委員会の活動は、子どもの人間工学分科会の設立に結びつき、その後同分科会は委員会へと独自の展開を遂げた。その一方で、学術団体が技術ロードマップを有効利用することは、横幹連合による技術ロードマップ活動の経緯にも見られるように、必ずしも容易ではないことが明らかになっている。JES においても同様の困難が存在する。そこで、今後取り組むべき事項が明らかとなった時点で活動を再開することとし、次年度(23 年度)は活動を一時停止することとした。

### 3-18. 文科省科研費担当

{ 担当:齊藤 進、青木 和夫 }

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。人間工学が本来果たすべき社会的・学術的役割の重要性から、「人間工学」をこれら以外にも分科細目表に採択するよう、学会として積極的に要望することを総会決議している。人間工学を「時限付き分科細目表」への新分野候補として採択する要望は、平成 21 年 10 月に日本学術振興会へ提出している。

平成 22 年度には、ニーズ対応委員会と共同で実施した科研費に関する学会員の応募実績と要望等を分析した資料及び大学等における人間工学教育と研究の現状を調査した結果に基づき、総合領域の分科に「人間工学」を設定するよう、提案することにした。これらの調査結果を根拠となる参考データとし添付した上で、平成 25 年度公募から適用する「系・分野・分科・細目表」への提案書を平成 22 年 8 月に日本学術振興会へ提出した。

### 3-19 . 日本人間工学会第 51 回大会

{ 担当 : 横山 真太郎 }

開催日は、2010 年 6 月 19 日 ( 土 ) , 20 日 ( 日 ) であった。大会会場は、北海道大学学術交流会館で、懇親会場は札幌アспенホテルであった。

大会企画シンポジウム「人間工学 - その伝統と未来 - 」を行った。また、IEA の Imada 会長に特別講演をお願いした。さらに、学会企画パネルディスカッション「安全人間工学再興」を行なった。公募シンポジウムの中から、3 課題を企画化し、「サービス工学をめぐって」を開催した。その他、公募シンポジウムとフォーラム合わせて 8 テーマ開催した。

今回から導入したハイブリッド発表 ( 口頭で 3 分以内で発表し、ポスターの前で質疑応答するもの ) の件数は 112 題で、ポスター賞として優秀賞 ( アイデア賞 ) 、優秀賞 ( ユーモア賞 ) 、優秀賞 ( ハートフル賞 ) 、優秀賞 ( 安全賞 ) 、優秀賞 ( エコライフ賞 ) 等を実行委員会が選定し授与した。従来形式の口頭発表件数は 78 題であった。

学会員、協賛学会員、賛助会員、理事、実行委員のみなさんのご支援、ご協力により、全国から約 450 名の方々にご参加いただき無事終了することが出来ました。大会スタッフ一同心より御礼申し上げます。

## 4 . 支部活動

### 4-1. 北海道支部

{ 支部長 : 横山 真太郎 }

#### (1) 会議

- 1) 支部役員会 平成 22 年 5 月 21 日 ( 金 ) 北海道大学工学部
  - ・平成 21 年度 支部事業報告
  - ・平成 21 年度 決算報告並びに監査報告
  - ・平成 22 年度 予算案
  - ・平成 22 年度 支部事業計画案
  - ・平成 22 年度 総会について
  - ・平成 22 年度 日本人間工学会第 51 回大会 ( 6 月 19 日 ~ 20 日 ) 開催支援について
  - ・平成 23 年度 支部大会および総会について
  - ・その他

#### (2) 平成 22 年度支部総会

大会長 : 横山真太郎 ( 北海道大学 )

日 時 : 平成 22 年 6 月 20 日 ( 日 )

場 所 : 北海道大学学術交流会館

#### 1) 支部総会議題

- ・平成 21 年度支部事業報告
- ・平成 21 年度決算報告並びに監査報告
- ・平成 22 年度予算案
- ・平成 22 年度支部事業計画
- ・平成 23 年度北海道支部大会開催について

### 4-2. 東北支部

{ 支部長 : 北村 正晴 }

#### (1) 支部役員会

- 1) 開催日時 : 平成 22 年 4 月 5 日 ( 月 ) 17:00 ~ 19:00

2)会 場：東北大学未来科学技術共同研究センター 北村研究室

3)議 題・支部総会について

- ・支部役員人事計画(メンバーの増強、選挙規則他)
- ・支部主催研究会、講演会の企画
- ・他学協会との連携(横幹連合他)
- ・HP への情報提示、その他

(2)定時支部総会

1)開催日時：平成22年4月23日(金)16:00～

2)会 場：東北大学工学研究科 総合研究棟 第2講義室(110号室)

3)議 事・一般社団法人化に伴う現況説明

- ・平成22年度役員の選出
- ・平成21年度事業報告および決算報告
- ・平成22年度事業計画案および事業予算案
- ・その他

(3)支部研究会等

・支部研究会22-1

1)テーマ：「人に頼る安全/頼らない安全：ヒューマンファクターの安全戦略を巡って」

2)開催日時：平成22年8月21日(土)14:00～17:30

3)会 場：東北大学工学研究科総合研究棟 110号室

4)講 師：早稲田大学理工学術院創造理工学教授 小松原明哲氏

5)参加者：28名

・支部研究会22-2(東北心理学会と共催)

1)テーマ：「産業現場における事故防止 - 研究者は実践家の問いに応えられるか」

2)開催日時：平成22年9月12日(日)13:00～14:30

3)会 場：宮城学院女子大学講義館C201室

4)話題提供：青山 久枝氏((独)電子航法研究所 主任研究員・航空管制官)

大江 公彦氏(東北電力(株)火力原子力本部 原子力部(原子力運営))

藤盛 啓成氏(東北大学病院医療安全推進室；ゼネラルリスクマネージャー(医師))

5)指定討論：吉田 信彌氏(東北学院大学 教授)

北村 正晴氏(東北大学未来科学技術共同研究センター 教授)

・支部研究会22-3

1)テーマ：「組織事故とレジリエンス」解説

2)開催日時：平成23年2月5日(土)14:00～17:00

3)会 場：東北大学工学研究科総合研究棟 110号室

4)講 師：佐相邦英氏((財)電力中央研究所 社会経済研究所 ヒューマンファクター研究センター)

5)参加者：30名

(注：支部研究会の記録はすべて文字起こし版とPPT資料を支部HPに掲載している)

#### 4-3. 関東支部

{支部長：八田 一利}

(1)第40回関東支部大会

・開催日：平成22年12月4日(土)～5日(日)

・会 場：東海大学高輪キャンパス

・大会長:西口宏美先生

企画セッション:4件19題 一般演題:79題

(2)支部委員会

開催日:平成22年12月4日 会場:東海大学高輪キャンパス

(3)支部総会

開催日:平成22年12月4日 会場:東海大学高輪キャンパス

(4)卒業研究発表会

開催日:平成22年12月4日 会場:東海大学高輪キャンパス 演題数:40題

(5)見学会

開催日:平成23年3月18日 会場:産業技術総合研究所 臨海副都心センター

デジタルヒューマン工学研究センター

25名から参加申込があったが、東北関東大震災の影響で中止とした。

(6)ニューズレターの発行:見学会案内(2月)

#### 4-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

(1)平成22年度日本人間工学会東海支部研究大会報告

・開催日時:平成22年10月30日(土) 9:30~20:00

・開催場所:名古屋工業大学

・大会長・実行委員長:仁科 健 名古屋工業大学教授

・発表演題数:特別講演1件、学生支援特別企画「企業との架け橋 - 東海支部プログラム」 -、一般演題:32件

・参加者:96名

・懇親会参加者:36名

(2)役員会開催(3回開催)

(1)第1回役員会 平成22年7月2日(金) 名城大学名駅サテライト

(2)第2回役員会 平成22年10月29日(金) 名古屋工業大学

(3)第3回役員会 平成22年12月18日(土) 名城大学名駅サテライト

(4)メール審議平成22年9月

(3)平成23年度東海支部総会は一般社団法人日本人間工学会定時総会時期にあわせて、平成23年5月14日(土)(名城大学名駅サテライト)に開催。

#### 4-5. 関西支部

{支部長:萩原 啓}

(1)企画・行事等

1)見学会&講演会

立命館大学スポーツ健康科学部

開催日:平成22年11月12日(金)

施設見学( MR室 パフォーマンス測定室 スポーツ健康指導実験室・応用スポーツ科学実験室)

参加者23名

2)支部大会

開催日:平成22年12月4日(土) 12月5日(日)

会場:大阪工業大学大宮キャンパス

大会長:大須賀美恵子先生

特別講演：「知能と身体の謎に挑む認知発達ロボティクス」

浅田 稔先生 大阪大学大学院教授、大阪工業大学客員教授

教育講演：「人間工学研究のための倫理指針 - 背景・概要・運用の私見 - 」

石橋基範先生 マツダ（株）技術研究所 主幹研究員

公開講座：人間工学会安全人間工学研究部会企画

「事故防止のヒューマンファクターズ・アプローチ - 第一線からの防止対策の紹介 - 」

企画セッション： 企業における人間生活工学の活用

高齢者施設における人間工学が果たす役割

ドライバ支援への人間工学的アプローチ

5年先のペルソナを考える

- マザーキューブによるロードマップ作成手法の検討 -

感動を測る・伝える技術開発

観察工学・サービス工学の新しい取り組み

一般演題：計56件

懇親会

支部大会参加者197名

### 3) 春季講演会

開催日：平成23年3月26日（土）

会場：キャンパスプラザ京都

【講師】 篠田博之先生 立命館大学情報理工学部知能情報学科 教授

【講演概要】携帯電話やPCなどの自発光型ディスプレイにおける個人差と視環境に対応したカラーマネジメント、ディスプレイを用いた色覚特性の測定手法と色覚バリアフリーの取り組み、白内障の簡易測定法と高齢者用照明などについて、高額な機器を用いることなく視覚特性や色覚特性を簡便に測定する手法の提案とその測定結果の活用について講演。

参加者 41 名

### 4) 協賛

計測自動制御学会関西支部

・平成22年度講習会 平成22年7月13日（火）常翔学園 大阪センター

「ナノ・マイクロスケール研究の最新動向」

MEMS を用いたナノスケールの材料計測

原子間力顕微鏡を用いた原子レベルでの物性計測と原子操作

生体分子の機能動態を可視化する高速 AFM 技術

MEMS+IC の総合シミュレーション

### (2) 会議・総会等

#### 1) 第1回企画幹事会

開催日：平成22年7月8日（木）

会場：常翔学園 大阪センター

#### 2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日：平成22年12月4日（土）

会場：大阪工業大学

#### 3) 第2回企画幹事会

開催日：平成23年1月19日（水）

会場：立命館大阪オフィス

#### 4) 平成23年度～平成24年度評議員選挙

投票期間：平成23年2月7日（月）～ 2月18日（金）

- 5)選挙管理委員会  
 開催日：平成23年 2月23日（水）  
 会 場：立命館大阪オフィス
- 6)第2回評議員会役員会合同会議  
 開催日：平成23年 3月26日（土）  
 会 場：キャンパスプラザ京都
- 7)支部総会  
 開催日：平成22年 3月26日（土）  
 会 場：キャンパスプラザ京都  
 出席者：39名(委任状99名)
- 8)優秀発表賞授賞式（支部総会時）（当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象）  
 【発表者】  
 原田弘孝(東洋紡績(株))  
 【発表題目】  
 「むれ感の部位差に着目した快適性に優れるカーシート」  
 【発表者】  
 福田映子(大和ハウス工業(株))  
 【発表題目】  
 「早朝光照射の色温度が覚醒に及ぼす影響に関する研究」  
 【発表者】  
 山本知世子(京都工芸繊維大学大学院)  
 【発表題目】  
 「食事写真を用いた栄養価推定を行う管理栄養士のプロトコル分析による思考の検討」
- 9)その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

#### 4-6.中国・四国支部

{支部長:村田 厚生}

- (1)理事会開催（2回）  
 第1回：2010年10月30日，場所：広島大学霞キャンパス広仁会館  
 第2回：2011年3月31日，場所：岡山大学工学部
- (2)第43回日本人間工学会中国・四国支部大会を開催  
 開催日：2010年10月30日，場所：広島大学霞キャンパス広仁会館  
 大会長：宇土博 先生（広島文教女子大学）  
 大会参加人数：112名  
 予稿集広告掲載企業数：8社
- (3)支部講演会開催  
 開催日：2010年10月30日，場所：広島大学霞キャンパス広仁会館  
 講演：「Dr.Grip から福祉工学への展開」  
 講師：宇土博 先生（広島文教女子大学教授）  
 講演：「農業における人間工学的対策 - ブドウの「一文字イマイ仕立て」栽培について -」  
 講師：今井俊治 先生（前広島県農業技術センター次長）
- (4)2010年度支部表彰の実施  
 支部表彰選考委員 {村田厚生氏（支部長），土居俊一氏(香川大学)，農沢隆秀氏(マツダ)}による厳正なる審査を行った．各セッションの座長に推薦された発表論文の中から上記3委員による絶対評価を行った結果，下記

の2編が優秀論文として表彰された。

優秀論文賞論文：

講演番号 107 「疲労度モニタリングシステムを有する自動車用シートの開発」

小島重行, 内川竜一, 小倉由美, 藤田悦則 (デルタツーリング), 辻敏夫 (広島大学大学院), 金子成彦 (東京大学大学院)

講演番号 110 「運転状況におけるクロスモーダルリンクを活用した警報提示の有効性に関する基礎研究」

田中弘毅, 村田厚生, 早見武人, 森若誠 (岡山大学大学院)

#### 4-7.九州・沖縄支部

{支部長:長谷川 徹也}

##### (1)第31回支部評議員会

- 1)月 日:平成22年12月11日
- 2)会 場: 総合せき損センター (飯塚)
- 3)議 題:平成22年度活動報告と決算
  - ・平成23年度活動計画と予算案
  - ・平成23年度第32回大会について
  - ・その他

##### (2)第31回支部総会

- 1)月 日:平成22年12月11日
- 2)会 場: 総合せき損センター (飯塚)
- 3)議 題:平成22年度活動報告と決算
  - ・平成23年度活動計画と予算案
  - ・平成23年度第32回大会について
  - ・その他

##### (3)第31回九州・沖縄支部大会

- 1)月 日:平成22年12月11日
- 2)会 場: 総合せき損センター (飯塚)
- 3)大会長: 藤家 馨 (総合せき損センター)
- 4)研究発表:ポスター発表6演題

シンポジウム「日常生活でロボットを使おう」

榊 泰輔 (九州産業大学 教授)

高杉 紳一郎 (九州大学病院 リハビリテーション部部長)

高本 陽一 (株式会社テムザック 代表取締役)

姜 奉求 (頸髄損傷者)

ロボットの展示実演

- (4)「九州支部第31回大会講演集(九州人間工学 第31号)」の作成
- (5)「九州人間工学 第31号」の発送

## 5. 研究部会活動

### 5-1. 医療安全研究部会

{ 部会長: 土屋 文人 }

#### (1) 活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

#### (2) 活動内容及び成果

本年度は平成 23 年 3 月 9 日に横幹連合医薬品インターフェース調査研究会との合同で「製薬企業のための人間工学入門」講習会を芝浦工業大学豊洲キャンパスにて開催した。ここ 2 年間に人間工学会大会、関東支部大会等で発表されたものについて紹介を行うとともに、製薬企業における人間工学的研究の必要性について概説した。今回は製薬企業、行政を含め 61 名が参加した。製薬企業に対する人間工学分野での研究の必要性については一昨年度作成した医薬品分野における人間工学的研究の論文や大会要旨をまとめた冊子「医薬品の使用の安全に関する資料集」を配布するとともに、啓発活動を行った。

### 5-2. 衣服人間工学部会

{ 部会長: 高部 啓子 }

#### (1) 活動目的

当部会は、平成 14 年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。22 年度は、衣生活における衣服の設計条件からその機能性や安全性などの評価方法に関わる諸問題について研究を進めていくをテーマに、若手人材の育成を念頭に置き、参加型での勉強会や見学会などを企画し活動することを目的とした。

#### (2) 活動内容

平成 22 年度は、役員会を 3 回、例会 2 回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

- 1) 第 1 回役員会：平成 22 年 9 月 7 日， 於 文化女子大学
- 2) 第 2 回役員会：平成 22 年 11 月 13 日， 於 文化女子大学
- 3) 第 3 回役員会：平成 23 年 3 月 1 日， 於 砺波ロイヤルホテル

#### 4) 第 1 回例会

開催日：平成 22 年 11 月 13 日

場 所：文化女子大学

演 題：「知覚現象・知覚印象の測定をめぐる - それぞれの測定法の抱える問題 - 」

講演者：首都大学東京 人文科学研究科 教授 市原 茂氏

参加者：部会長以下 20 名

#### 5) 第 2 回例会（見学会）

開催日：平成 23 年 3 月 1 日～2 日

場 所：富山県砺波市周辺

内 容：1 日目 北陸エステアール協同組合（縫製工場ニューレディ、富士レース）

2 日目 ゴールドウィンテクニカルセンター

参加者：部会長以下 9 名

#### (3) 成果

- ・第 1 回例会では、着る視点での評価に欠かせない官能評価の基礎、測定法について知覚を中心にご講演いただいた。基本的な内容を確認する良い機会となった。

・第2回例会は富山県砺波市周辺の見学会であった。着心地にシビアな下着のメーカーにおける製品設計の流れや考え方、企業独自の三次元計測器の解説とデータ活用事例、下着に用いられる伸縮素材メーカーの開発事例、スポーツウエアメーカーの極限に強い製品開発の根底に横たわるものや宇宙下着の開発事例など多くのことについて知識を増やし、考え方を知るよい機会となった。

#### (4)問題点

- ・以前より問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・若手人材の育成も急務と考える。

#### (5)展望

- ・今年度の見学会では、基礎研究は大学で、それを製品化し消費者に提供するのは企業でという要望が企業サイドから提案された。大企業でないと、製品の基礎的研究に関わる人材や測定機器の準備までは難しいとのことであった。ものづくりに関わる中小企業等への研究成果の発信を積極的に展開していきたい。
- ・若手研究者の育成に関わる勉強会も積極的に進めたい。

### 5-3.触覚インタラクション研究部会

{部会長:山本 栄}

(1)2010年7月19日から22日までMiami(USA)で開催された第3回 International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics において “ Prospective Tactile & Haptic Interactions ” というセッションをオーガナイズし、7件の発表を行った。発表タイトルと発表者は以下のとおりである。

- 1)Title: Effective presentation for velocity and direction information produced by using tactile actuator.  
Authors : Prof. Kentaro Kotani(Faculty of Engineering Science, Kansai University ), Mr. Toru Yu(Faculty of Engineering Science, Kansai University), Dr. Takafumi Asao(Faculty of Engineering Science, Kansai University ) Prof. Ken Horii(Faculty of Engineering Science, Kansai University )
- 2)Title: Evaluation of dynamic touch using moment of joint inertia  
Authors: Dr.Takafumi Asao(Faculty of Engineering Science, Kansai University, ) Mr. Yuta Kumazaki (Faculty of Engineering Science, Kansai University,)Mr. Kota Kawanishi(Faculty of Engineering Science, Kansai University ), Prof. Kentaro Kotani (Faculty of Engineering Science, Kansai University,) Prof. Ken Horii(Faculty of Engineering Science, Kansai University )
- 3)Title: Can "Tactile Kiosk" attract potential users in public?  
Authors: Mr. Yuki Yasuma(Keio University), Dr. Miwa Nakanishi (Chiba University), Prof. Yusaku Okada(Keio University )
- 4)Title: Prospective Tactile & Haptic Interactions  
Authors: Mr. Takahiro Fukui(Keio University) Dr. Miwa Nakanishi(Chiba University ) ,Prof. Sakae Yamamoto(Tokyo Univ. of Science), Prof. Yusaku Okada(Keio University )
- 5)Title: Universal Communication through Touch Panel  
Authors: Dr. N. Hosono(Oki Consulting Solutions, Co., Ltd.,) Mr. H. Inoue(Chiba Prefectural University of Health Science), Dr. H. Miki(Oki Electric Ind. Co., Ltd. )Mr. M. Suzuki(Architectural Association of Japanese Deaf),Prof. Y. Tomita(Keio University)
- 6)Title: Study on a Haptic Interaction with Touch Panel  
Authors: Dr. D. Kobayashi(Chitose Institute of Technology)Prof. S. Yamamoto(Tokyo Univ. of Science )
- 7)Title: Using a GPS-based tactile belt to assist in robot navigation.  
Authors: Dr. Linda R. Elliott(U.S. Army Research Laboratory)Dr. Elizabeth S. Redden((U.S. Army Research Laboratory), Dr. Rodger A. Pettitt(U.S. Army Research Laboratory)

(2)第二回日本人間工学会触覚インタラクション部会主催

触覚インタラクション研究会を2011年3月25日に開催した。

場所は東京理科大学理想会館3階第一会議室で以下の発表を行った。

1) タッチパネル操作における触覚研究高齢者の操作について

山本栄(東京理科大学), 小林大二(千歳科学技術大学)

2) マルチタッチインタフェース特有の操作を用いた拡大方法の評価

東京理科大学大学院 真壁航太

3) 触圧覚における視覚情報の効果

横浜国立大学 岡嶋 克典

4) 体制感覚とヒューマンインタフェース

大阪市立大学 岡田 明

5) 非接触覚インタフェース開発の試み

関西大学 小谷賢太郎

・参加者(除く発表者)

朴美卿(東京首都大学), 小林正(愛知工大), 田原慎太郎(東京理科大学大学院),

飯塚重善(神奈川大学), 細野直恒(沖ソリューションズ)

(3) 幹事に中西美和(慶應義塾大学)をお願いし, 幹事2名体制で活動を強化することにした。

#### 5-4. 航空人間工学部会

{ 部会長: 田中 敬司 }

(1) 目的

航空人間工学に関する知識の普及および情報の共有化を進める。

今年度は「過去の事故事例から学ぶ」をテーマとし、航空事故事例から得たヒューマン・マシンインタフェース、人間特性に関わる問題、事故防止対策・教訓等及び最新の事故調査の動向等について検討する。

(2) 方法

1) 例会

92 回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催した。

例会には、90 名が参加し活発な議論が行われた。また、下期の活動として施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

・第92回例会

日 時：平成22年7月2日(木) 10:45 - 16:45

場 所：オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

テーマ：過去の事故事例から学ぶ

講演：

・運輸安全委員会(JTSB)の設立と活動状況について

国土交通省運輸安全委員会総務課長 菅井 雅昭氏

・航空安全情報ネットワーク(ASI-NET)運営10周年を迎えて

(財)航空輸送技術研究センター(ATEC)専務理事 谷 寧久氏

・No YAW Control 事故に学ぶ

朝日航洋(株) 航空事業本部 安全推進室長 望月 清光氏

・米国コルガン航空機事故に学ぶ

ANA グループ総合安全推進室グループ安全推進部 テクニカルスタッフ A320 機長 木村 雅彦氏

・日本航空のタービュランス事故防止への取り組み

(株)日本航空インターナショナル 運航安全推進部運航安全評価室 B747-400 機長 加藤 勇治氏

・搭載型乱気流検知システムの研究開発

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 運航・安全技術チーム ライダ技術セクションリーダー 井之口 浜木氏

## 2) 施設見学会

見学場所：東京航空局 羽田空港事務所（新管制塔）

実施日：平成23年3月11日（金）10:00～12:00、14:00～16:00

総計52名（第1回目は、25名の参加、第2回目は、27名参加）の参加があった。

特記：第2回目開催時、東北地方太平洋沖地震が発生し、以降のRCC/タワー見学は中止。  
施設内における会員・委員・幹事の皆様の負傷等の発生は無し。

## 3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概は以下のとおりである。

### ・第51回委員会

日時：平成22年10月25日（月） 16:00 - 17:30

場所：（財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・委員の選任について【承認】 朝日航洋株 安全推進室 室長 望月 清光氏
- ・第92回例会、上期会計報告について
- ・平成22年度上期会計報告（案）について
- ・本年度下期の活動（案）について
- ・来年度の活動（案）について

### ・第52回委員会

日時：平成23年3月23日（水） 16:30 - 18:00

場所：（財）航空輸送技術研究センター（ATEC）会議室

議題：

- ・平成22年度会計報告（案）について
- ・平成22年度活動報告（案）について
- ・平成23年度活動計画（案）について
- ・次回例会（第93回）テーマについて

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成22年度は幹事会を3回開催した。

## 4) ホームページの運営

昨年度に更新したホームページを活用し、例会、施設見学会の案内や出欠の確認をはじめ、非会員も含め多くの関係者に対して航空人間工学への理解・関心を深めることに貢献した。

今年度から、例会、施設見学会の案内や出欠の確認は、従来の郵送やFAXによる方法からホームページからの案内に変更した。ホーム申し込みを行う割合は着実に増えており、費用対効果が高いことが確認されたため、今後コンテンツの一層の充実を図りつつ活用して行く。

また、ホームページには過去1年間に開催された例会の講演内容を掲載し、例会に出席出来なかった会員に対する支援等を行った。

## 5) 例会資料の電子ファイル化の継続

第92回例会（2010年7月開催）資料をCD-ROMに記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈(\*)した。

\*講演者の承諾は全て得られた。

## (3) 成果及び展望

今年度は、札幌にてISASI(\*)が開催された年であり、テーマをリンクさせ「過去の事故事例から学ぶ」とし活動を展開した。

例会では、テーマに沿って航空行政・運用者・団体が連携をとり、再発防止や未然防止に向けた原因分析や対策について発表し、事故から学ぶべき教訓を共有した。活発な質問や議論もあり参加者の興味を大きく引いていた。それぞれの参加者における安全意識等の啓発に寄与したとものと推測される。

次年度のテーマ設定については、航空を取り巻く最近の動向を踏まえつつ、今年度の取り組みを更に深める内容を検討し、会員の興味を引く設定とし活動を継続・展開することにより、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものとする。

\*ISASI : The International Society of Air Safety Investigators

## 5-5. アーゴデザイン部会

{ 部会長: 上田 義弘 }

### (1) 活動テーマ:

「次世代のアーゴデザイン活動を探る」

### (2) 部会運営と主な活動内容

- ・部会員 : 104名(2011年3月31日現在)
- ・活動概要 : 2010年度は、シンポジウム3回、コンセプト事例発表会1回、見学会1回、合宿研究会1回、幹事会8回、総会1回、ビジョンデザイン方法論WGセッション4回、ビジョンデザインSIGミーティング1回、マザーロードマップWGセッション5回、テーマ検討WGセッション3回等、様々な活動を実施してきた。以下に主な活動を記す。

- 1) 独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページの運用、部会員メーリングネットワークの運用、幹事会メーリングネットワークの運用
- 2) 第51回日本人間工学会全国大会シンポジウム開催(平成22年6月20日) 於: 北海道大学  
テーマ: 「ビジョン提案型デザイン手法の実践」 50名
- 3) コンセプト事例発表会開催(平成22年9月3日) 於: 首都大学東京サテライトキャンパス  
論文発表: 10件、加えてパネルディスカッション: 「次世代のアーゴデザイン活動を探る」(5者発表)を実施。  
ポスター発表: 14件、参加者数60名
- 4) 見学会開催(平成22年11月5日) 日本航空安全啓発センター見学 於: 日本航空安全啓発センター  
テーマ: 「航空機の安全・安心とアーゴデザイン」 参加者: 15名
- 5) シンポジウム開催(平成22年12月5日) 日本人間工学会関西支部大会 於: 大阪工業大学  
テーマ: 「5年先のペルソナを考える」- マザーキューブによるロードマップ作成手法 - 参加者: 約30名
- 6) シンポジウム開催(平成22年12月5日) 日本人間工学会関東支部大会 於: 東海大学高輪  
テーマ: 「ビジョン提案型デザイン手法における評価と応用事例」 参加者: 約40名
- 7) 2010年度合宿研究会In湘南国際村(平成23年3月11日、12日) 於: 湘南国際村センター会議室  
テーマ: 「これからのHCD-クラウド・サステナブル・BOPとアーゴデザイン-」 参加者数37名
- 8) 2010年度部会総会開催(平成23年3月12日) 於: 湘南国際村センター会議室  
2010年度活動報告及び決算、2011年度活動計画及び予算の承認

### 9) その他の活動:

- ・ビジョンデザイン方法論WG活動中(担当幹事: 山崎、早川、柳田、郷、高橋(克)、上田)
- ・ビジョンデザイン方法論SIG活動中、SIGミーティングを開催、メーリングにて情報提供実施。
- ・マザーロードマップWG活動中(担当幹事: 新家、高橋(靖)、堀野、細田、吉井、上田)
- ・テーマ検討WG活動中(担当幹事: 高橋(靖)、山崎、新家、高橋(克)、上田)

(3) 成果: アーゴデザインのこれからの方向性を議論することができ、部会員の課題意識や社会がアーゴデザインに求める課題を把握することができた。ビジョン提案型デザイン手法の応用事例や評価に関して議論することができ、方法論としての全体像が整ってきた。また、マザーロードマップの方向性が見えてきて、第一次として内容まとめの段階となってきた。

(4) 問題点: アーゴデザイン研究の方向性に関して、さらに広く、深く議論を展開する必要がある。

- (5)展望 :アーゴデザイン研究の中心的課題であるH C Dの今後のあり方について議論を深め、新たな動きを示す  
これからの社会に向け、アーゴデザイン研究をさらに発展させたい。また、これまで部会活動の中心的課題であ  
った「ビジョン提案型デザイン手法」に関して、2011年度での出版を目指して活動する。

## 5-6.感性情報処理・官能評価部会

{部会長:山下 利之}

### (1)活動目的

当部会の活動目的は、人間の感性情報処理、およびそれらを用いた官能評価に関わる広範囲の研究領域に携わ  
る研究者が、相互に刺激を与えあう場を作ることである。

### (2)手段・方法

その手段として本年度に当部会が取り組んだ方法は、学術講演会の実施、関東支部大会におけるシンポジウム  
の企画、部会員のシステム大会への参加の促進である。学術講演会は「空間・環境の新たな構築」をテーマと  
して、日本知能情報ファジィ学会関東支部と共催した。関東支部大会では「今こそ食について考える」をテ  
ーマとした企画セッションを開催した。しかし、東日本大震災の影響でシステム大会は中止となった。

### (3)活動内容

#### 1)本年度は日本知能情報ファジィ学会関東支部との共催により学術講演会を行った。

学術講演会「空間・環境の新たな展開」(平成22年9月25日(土)文化女子大学)

- ・茅原拓朗(宮城大学)「雰囲気伝える空間型ARシステム」
- ・橋本修左(武蔵野大学)「仮眠と音環境」

#### 2)日本人間工学会関東支部第40回大会(平成22年12月4日~5日、東海大学)において、感性情報処理・官能 評価部会企画シンポジウム「今こそ食について考える-官能評価・感性工学からの再考-」を企画した。話題 提供者は以下の3名であった。

- ・森高初恵(昭和女子大学)「易摂食性食品にける咀嚼・嚥下特性と力学特性との関係」
- ・和田有史(独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構)「実験心理学で探る食の感性」
- ・神田太樹(西武文理大学)「食感性評価-感性工学における食に関する評価についての考察-」

### (4)成果と問題点

本年度は東日本大震災の影響で、講演会、システム大会は中止せざるを得なく、活動は昨年に比べて少な  
かった。しかし、学術講演会「空間・環境の新たな展開」では、その領域の最先端で活躍している研究者を招い  
てお話を伺い、活発な議論を展開した。また、日本知能情報ファジィ学会関東支部と共催したことによって、  
他領域の研究者との交流が深まった。日本人間工学会関東支部第38回大会においては、企画シンポジウム「今  
こそ食について考える-官能評価・感性工学からの再考-」を開催し、大学及び研究所で活躍されている先生  
方を交えての講演と活発な議論を行った。システム大会は残念ながら中止となったが、感性情報処理・官能評  
価セッションと学生セッションを合わせて、大学院生を中心とする計8件の研究報告の準備を進めていたので、  
若手の研究意識を高める上では効果があったと思われる。

このように社会的事情で活動が大きく制約されたことや、当初計画した見学会を行うことができなかった。  
平成23年度はさらに講演会、研究会を増やすと同時に、見学会を行い、部会メンバーの学識を増やすとともに、  
システム大会における若手研究者の発表を大幅に増やしていきたい。

## 5-7.看護人間工学部会

{部会長:樋之津 淳子}

### (1)テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し  
研究成果を看護実践・教育現場にフィードバックする。

## (2)手段・方法

### 1)第18回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

平成22年8月28日(土)に福岡市において福岡県立大学看護学部の田中美智子教授が主催した。一般演題の発表、元東京電機大学 小川鑪一先生による教育講演「看護・介護動作を助ける基礎ボディメカニクス～人間工学入門～」ならびに花王株式会社 パーソナルヘルス研究所第2研究室 井垣通人先生による特別講演「蒸気温熱シートの効用と看護への応用」が行われた。

### 2)第19回システム連合大会への参加

看護人間工学部会からも幹事会として参加している第19回システム連合大会は平成23年3月18日(金)～3月20日(日)に開催予定であったが、震災による影響により中止となった。

### 3)「人間工学」誌に部会会員が論文投稿するようよびかけた。

### 4)看護人間工学研究誌第11巻を発行(平成23年3月)し、部会員に送付した。

### 5)ホームページやメーリングリストを活用し、日本人間工学会第51回大会への参加を広くよびかけた。

## (3)成果

### 1)第19回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会

参加者は約38名、一般演題11題が発表した。教育講演、特別講演、いずれも活発な意見交換が行われた。今後の研究に役立つ内容であった。

### 2)第19回システム連合大会への参加

2部会に計5演題エントリーしていた。

### 3)部会会員による日本人間工学会誌への論文投稿

原著論文はVol.46 No.1に1編、短報がNo.4に2編、計3編が掲載された。

### 4)看護人間工学研究誌第11巻を発行(平成23年3月)し、部会員に送付した。

寄稿2編、原著3編、事例報告1編、第18回看護人間工学部会抄録などを掲載した。

### 5)第51回大会の実行委員として看護人間工学部会会員3名が協力し、運営にあたった。また、演題発表も行った。

## (4)問題

### 1)看護人間工学部会会員で、まだ日本人間工学会に加入していない会員がいる。

### 2)「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿が少ない。

### 3)部会のホームページの英語版を設けることを目標として取り組んできたが、出来ていない。

## (5)展望

### 1)看護人間工学部会員の人間工学会への入会促進に向けて引き続き取り組んでいく。

### 2)本部会での研究発表と「人間工学」「看護人間工学研究誌」への投稿を促進する。

### 3)看護人間工学部会のホームページの英語版を設ける。

### 4)看護人間工学研究誌、研究発表会の充実をはかる。

## 5-8. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長:平沢 尚毅 }

### (1)平成22年度活動テーマ

「社会システムなどの社会基盤の情報通信技術の適用に対する人間工学の可能性と課題」について探求した。これまで、製品や個別システムを対象としてきた人間中心アプローチを、社会システムを対象とした場合の可能性と課題を研究した。

### (2)活動内容(手段・方法)

#### 1)シンポジウムの開催

2010年6月20日(日) 小樽商科大学札幌サテライトにて、『人間中心(住民中心)から行政事業を考える』というテーマでシンポジウムを開催した。開催の趣旨は、行政の様々な現場で活動を行っている立場から、行政事業における人間中心アプローチの可能性と課題について議論を行うことであった。パネリストには、情報化計画の

立案や、コールセンター業務の実施において住民中心の事業実施を試みられた札幌市の金田博恵氏、交通計画などの分野で住民参加の合意形成による事業実施に関わってこられた北海道大学の高野伸栄氏、ニセコ町での住民中心の行政事業に長年関わってこられた前原功治氏を迎えた。シンポジウムには、北海道内の自治体関係者の参加があり、参加者との活発な議論が行われた。

#### 2) 計測自動制御学会への発表協力

(社)計測自動制御学会の年次大会である SICE2010 の Organized Session「Designing the Service Engineering in Post Ubiquitous Society」において、部会役員が発表協力した。

#### 3) 学会誌での紹介論文

学会から情報社会人間工学部会に関する総説を依頼され執筆した。2011 年度掲載予定である。

#### 4) 役員会

今年度の役員会は、役員全員の日程調整がうまくゆかなかったためにネットワークを利用した持ち回り開催とした。

#### (3) 成果

行政に関わる実務者とのシンポジウムを開催した結果、様々な活動の接点があることがわかった。結果として、人間工学を社会システムへと展開してゆく可能性を見いだすことができた。

#### (4) 問題点

内容の深いシンポジウムを開催することができ、参加者の関心も高かったが、学会関係者への連絡が遅れたため、学会関係者の参加が極端に少ない結果となった。今後、開催の広報を適切に考慮して実施する必要がある。

#### (5) 展望

昨年度は、自動車の安全性に対する社会問題から始まり、東日本大震災における原発事故のような安全性について強い関心が喚起された年度であった。今後、人間中心のアプローチによる情報社会の安全、安心のシステムに対する指針を明確にする必要がある。

## 5-9. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長: 江袋 林蔵 }

#### (1) テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成 22 年度は、第 2 会期第 2 年度に当たる。前期の成果を踏まえ、アゴノミクスの分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第 2 会期第 1 年度の活動に加え、日本音響学会や IEA AETC (Auditory Ergonomics TC) との交流を図り、国際的視野からこの問題への取り組み方を模索してきたが、国内活動はとも角として、IEA AETC の幹事国であるアメリカの HFES から AETC が姿を消したため、交流を図ることができなかった。既成学会の活動に倣いつつ、アゴノミクス研究分野における独自の領域開拓を図ることは次年度も変わらないが、別の角度から海外との交流を図ることが課題となった。

#### (2) 聴覚研究のミッション研究の手段

- 1) シンポジウムの開催・JES 内他部会内での交流・研究会の開催・および他学会との交流。
- 2) 幹事会の開催
- 3) ニュースレターの発行

#### (3) 方法

平成 22 年度展望を踏まえ前年度に準じて活動したが、特に海外との接触を模索した。また、音響学会聴覚研究会との共催を図った。

#### (4) 成果

概要 内外における研究者情報交流の促進により、聴覚コミュニケーションのアゴノミクスの分野における独自の領域開拓をはかる事を模索した。JES 第 51 回大会 (北海道大学) に於いてシンポジウムを開催し、新たな部会員の参加を見て、部会の充実が図れ、また、音響学会と共催の聴覚研究会ができ、音響学会の春季大会に参加し関連情報の収集ができた。しかし、IEA AE (Auditory Ergonomics) TC の幹事国であるアメリカの HFES

AETCの消滅により、IEA 関連との連携を図ることが出来なくなったが、Internoise2011 に座長で招聘され来日されるドイツのDr.Helmut Strasser (University of Siegen)と連絡を取ることが出来た。

1)シンポジウムの開催・研究会の開催・他学会との交流

a)JES 第51回大会 公募シンポジウム

日 時：2010年6月20日(日)

場 所：北海道大学 第4会議室

テーマ：ノンバーバルコミュニケーション

聴覚によるコミュニケーションには、言語のほか言語以外のさまざまな環境音による情報の受容認知という主要な機能が関与しており、日常的・職業的な活動、また教育的活動等にとって主要な研究の対象と考えられている。ここでは、音楽・楽音・効果音をはじめ信号音を含む各種人工音や自然界で生成され日夜を通してわれわれを取り巻き止まないでいるさまざまな環境音の生成・評価・応用について、それぞれの専門の立場から、よりよい生活環境・教育環境・職業環境・社会環境等を実現することについて話し合おうと考える。

座 長：徳弘一路(神奈川工科大学)

シンポジスト：4名

鈴木秀樹・鈴木珠奈(慶應義塾幼稚舎)： 連れ鳴きをもたらすもの

上田麻理(産総研/JSPS)： 視覚障害者と音環境

水浪田鶴・倉片憲治(産総研)： サイン音のデザインに求められる次の設計の観点とは？

徳弘一路(神奈川工科大学, 昭和音楽大学) 山家清彦(ソナリサーチ)： 音楽におけるコミュニケーション

参加者：45名 内5名の入部希望者を得た。

概 況：当日は質疑も活発で充実した集まりになった。

b)JES 内他部会内での交流

システム大会部会における視覚聴覚セッション(座長：高尾秀伸 神奈川工大)登録論文5件であったが東北関東大震災の影響で、中止となった。

(登録済みの論文)

江袋 林蔵(SAU 研究機構)

AE10-01 相異度法による環境騒音下の音声認識特性の調査-相異度法による騒音下了解度テスト(続)

久保田敦大, 高尾秀伸(神奈川工科大学)

AE10-02 視覚障害者向け商業施設内ナビゲーションシステムの開発-フィールド調査による問題シナリオの導出-

露崎高広, 久保田敦大, 高尾秀伸(神奈川工科大学)

AE10-03 立体音響における音像定位精度の検討 - 水平面における前後感の検討

井原 充哉, 高尾 秀伸(神奈川工科大学)

AE10-04 fNIRS による音像定位時の脳活動計測

徳弘一路\*, \*\*, 渡邊浩嵩\*, 梅田勲\*\*\* (神奈川工科大学\*, 昭和音楽大学\*\*, パラコーン楽器\*\*\*)

AE10-05 新規構造クラシックギターの性能計測と評価

c)第5回 AEG 研究会

都合により次年度繰越となったが、Internoise2011 に座長で招聘され来日されるドイツの Dr.Helmut Strasser (University of Siegen / 前ドイツ語圏 Ergonomics Society 会長)に招待講演を依頼することを幹事会で議決し、Dr.Helmut Strasser の内諾を得た。新年度になり、第5回 AEG 研究会の部会内広報と共に、JES AEG 部会長名で Invitation Letter を発行する事になる。

d)既成他学会との交流

\*九州大学主催の音響学会聴覚研究会(青柳会場)を共催した。

発表件数14件、内英語5件。2日間にわたり、連日熱気に溢れる討議が展開された。

[プログラム]

日本語雑音振動音声の境界周波数の変化が明瞭性に与える影響・準実時間子音強調システムにおける最適パラメータの検討・母親による逆再生乳児音声の検知・空間相関関数に基づくデュアルMS マイクロフォンによる高臨場感ステレオフォニック収音・色彩が音の大きさおよびうるささに及ぼす影響・スピーチ評価を目的とした倍音検知閾の測定・単語相異度計算用の日本語単語音素表記の検討・単語の音節遷移情報の処理を担う脳領域の fMRI による検討・(英文目次6件は省略した)

\* 音響学会春季研究発表会

i) 分散横断型スペシャルセッション

[人間の聴覚情報処理過程と音声認識技術]

期 日：2011年3月9日

座長 有木 康夫、副座長 菊池 英明

参加者：数百人

[音響学会資料より] 音声認識技術は、大量の音声言語データを用いる統計的手法(HMM法：江袋注)によって大きな進歩を遂げ、実用的にも一定の成功を収めている。しかしながら自発的な音声に対する認識精度や、学習データの構築にかかるコストなどの問題に対してブレークスルーが求められている。

(後略)

(プログラム概要)

コンピュータによる音声認識のこれまでと展望(古井貞熙 - 東工大)、音声の知覚と認識(赤木正人 - 北陸先端大)、マザリーズから学ぶ日本語の韻律特性(馬塚れい子 - 理化学研究所)、情報の分離と音響モデリング(峯松信明 - 東大)

[聴講概要] Ergonomics の視点から見ても、我々が音声認識装置(ASR)の実用化を図ってから40年以上経った今日においてさえも、音声認識技術開発の進展そのものは目を見張るものがあるものの、実用に関しては多くの今日的課題を抱えていることが具体的に分かった。赤木先生のご講演で、我々の一研究成果である人と機械の認識特性の直接比較(MM則)が紹介され、HMM法の進展に希望が見えている、との締めくくりを頂いた。このセッションではAEGの研究領域にはある種の新たな展開のありそうな示唆をいただく事になったが、Ergonomics の視点からの音声応用研究、更には、OCR等の認識機械を含めた他の各種機器に対する我々 Ergonomics サイドからの基礎的研究開発の必要性を改めて再認識した。

ii) スペシャルセッション：音のデザイン 午前 - 前半(9:00~10:45)

座長 岩宮 眞一郎(現在JES、AEG部会 渉外幹事もお務め頂いている) 副座長 穂坂 倫佳

[ニュースレターNo.64(部会内広報)でこのセッションに参加を呼びかけ済み]

期 日：2011年3月10日(木)

会 場：早稲田大学西早稲田キャンパス

参加者：150名ほど

(プログラム)

ここでは、製品音デザイン・快音設計・機械設計の視点からの音のデザイン・公共空間の音環境・音の付加価値に関する日欧の考え方の違い・静かな車の接近報知音等々、の意見発表があり、質疑が盛んで会場は熱気に溢れており、当該スペシャルセッションでは、我々の視点から観ても示唆に富む発表が多々見られていた。

2) 幹事会の開催

- a) 新年に当たり、部会長名で当年のAEG研究推進に関する活動の指針をニュースレターNo.63により部会内に広報した。
- b) AEG規約第6条により第2会期後期部会長選挙を公報し、現行幹事会の継続が部会内で承認された。  
部会長 江袋林蔵、(庶事/渉外)  
幹事会 岩宮眞一郎(九州大学/渉外)、徳弘一路(神奈川工大/資料編纂)、水浪田鶴(産総研/広報)
- c) Dr. Helmut Strasser (University of Siegen / 前ドイツ語圏Ergonomics Society 会長)を第5回AEG研

研究会に招待講演依頼することを議決した。

3) ニュースレターの発行

No.64 迄発行した。

(5) 課 題

Auditory Ergonomics の分野での研究は昨年度で7年を経過し、今年度は8年目になるが、これまでの活動を通じて我々の考える十分条件側からの研究方法に対する理解を一般に得るのが至難であることは、HFES から AETC がなくなったことから理解できると考えられる。Ergonomics に軸足を置く研究方法の確立が今後の課題となることが第2会期前半迄の活動を通じて改めて認識された。

(6) 展 望

第2会期後半初年度は、上記課題を踏まえた活動を展開することになるが、成果を急ぐより、課題とされている事柄について活動を通じて理解することが先になる。幸い、既存学会との交流も順調であり、今年度は EU から Dr. Helmut Strasser をお迎えするので、先に向けての展望がなにかしかも開けることを期待したい。

## 5-10. 安全人間工学研究部会

{ 部会長: 芳賀 繁 }

- (1) ホームページを開設し、研究会の案内等を掲載した。URL は[http://www2.rikkyo.ac.jp/web/jes\\_anzen/](http://www2.rikkyo.ac.jp/web/jes_anzen/)。
- (2) 研究部会の会員（日本人間工学会会員資格を有する者 = H22 年3月末現在 28 名入会）と、研究会の参加者を結ぶメンバーリスト（H22 年3月末現在 97 名登録）を作成し活用している。
- (3) 平成 22 年度は5回の研究会を開催（主催・共催を含む）した。その日時、場所、内容は下記のとおりである。

1) 安全人間工学研究部会第1回研究会

日時：平成 22 年 7 月 10 日（土）14 時～16 時 30 分

場所：早稲田大学（西早稲田キャンパス 53 号館 101 教室）

講演：小松原明哲教授（早稲田大学）

「The Field Guide to Understanding Human Error by Sidney Dekker を訳して：ヒューマンエラーとはそもそも何？」

参加者：60 名（講師含む）

2) 日本人間工学会東北支部研究会（安全人間工学研究部会共催）

日時：平成 22 年 8 月 21 日（土）14 時～17 時 30 分

場所：東北大学工学研究科総合研究棟第二講義室

講演：小松原明哲教授（早稲田大学）

「人に頼る安全 / 頼らない安全：ヒューマンファクターの安全戦略を巡って」

3) 安全人間工学研究部会第2回研究会（認知心理学会安全心理学部会と共催）

日時：平成 22 年 10 月 9 日（土）14 時～16 時 00 分

場所：立教大学池袋キャンパス 8 号館 8303 教室

話題提供：古濱 寛 氏（東京電力（株））

「災害等分析能力の組織的な向上を目指した取組みと教訓」

4) 安全人間工学研究部会第3回研究会（認知心理学会安全心理学部会と共催）

日時：平成 22 年 11 月 13 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 52 号館 2 階 202 教室

話題提供：垣本由紀子氏（日本ヒューマンファクター研究所）

「米国における航空機等による事故被害者の支援体制について」

参加者：47 名（講師含む）

5) 安全人間工学研究部会第4回研究会

日時：平成 23 年 1 月 29 日（土）15 時 00 分～17 時 00 分

場所：立教大学池袋キャンパス7号館3階7301教室

参加者：約50名

時間：15:00-17:00

話題提供：稲葉緑助教(電気通信大学)

演題：「高齢者向けリスク教育の効果を高めるポイントとは？」 運転講習の模擬実験から得られた示唆をもとに」

(4) 日本人間工学会主催の公開講座のプログラムを、大阪大学臼井伸之介教授とともに企画した。公開講座は平成22年12月5日に大阪工業大学で開催され、約50名(うち一般参加者30名)が聴講した。そのプログラムは下記のとおりである。

事故防止のヒューマンファクターズ・アプローチ - 第一線からの防止対策の紹介 -

日時：平成22年12月5日(日)15時00分~17時00分

場所：大阪工業大学大宮キャンパス

参加者：50名(うち一般参加者30名)

演題と講演者：

1. ノーマルオペレーションから学ぶ - LOSA・TEM/CRM 訓練 -  
阿部 啓二
2. 病院情報システム導入後の医療の変化 - 医療安全の視点から -  
山口(中上)悦子, 朴 勤植, 仲谷 達也
3. 原子力発電所の安全風土 - 質問紙調査と現場調査を通して -  
福井 宏和

## 5-11. 3D 人間工学研究部会

{ 部会長: 河合 隆史 }

### (1) 活動目的

平成22年度の活動では、立体映像(3D)の急速な普及に伴う人間工学的課題について、研究者や技術者との最新の情報共有を目的として、セミナーやシンポジウムを企画した。

### (2) 手段・方法・成果

2010年10月14~17日に日本学未来館で開催された「Digital Content Expo 2010」において、「3Dエルゴノミクスセミナー」を主催した。本セミナーでは、3Dコンテンツの視覚・認知特性をはじめ、3Dテレビ方式間のアーチファクトの比較実験、3Dクロストークによる生体影響の評価実験などについて講演が行われた。また、2010年12月4日~5日に東海大学高輪キャンパスで開催された「日本人間工学会 関東支部第40回大会」において、「3D元年の人間工学」と題したシンポジウムを企画した。本シンポジウムでは、3Dを用いた多様なシステムやコンテンツを対象とした研究発表がなされ、参加者との活発な意見交換が行われた。

### (3) 展望

平成22年度に開催したセミナー、シンポジウムとも、多くの方々に参加いただき、3Dに対する関心の深さを確認することができた。今後は、最新の研究成果を共有する場を継続していくことに加えて、より多くの切り口、視点からの議論を盛り込んでいきたい。

## 5-12. システム大会部会

{ 部会長: 富田 豊 }

### (1) 活動テーマ:

感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧

座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、人間工学システム大会と称して18年前に発足した。2010年度は三家礼子(早稲田大学)が世話人となり、早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿)で3月18日、19日、20日に開催する予定であったが、東日本大震災の影響で中止とした。大会開催に向けて数回の幹事会を開いたので報告する。

(2)部会運営と主な活動内容

システム大会幹事会

・第1回システム大会幹事会

日時：3月14日(日)12:30~13:10

場所：大学セミナーハウス(八王子)

議題：本大会の今後の事業形態について、次回開催地、開催形態 等

・第2回システム大会幹事会

日時：9月18日(土)15:00~17:00

場所：早稲田大学(新宿)

議題：参加費、夜話、セッション、広報、その他部会運営について

・第3回システム大会幹事会

日時：11月27日(土)15:00~17:00

場所：早稲田大学(新宿)

議題：HPの作成などについて、HPの作成資料、JES誌告知文検討、プログラム枠作成、企業展示検討、他

・第4回システム大会幹事会

日時：2月5日(土)15:00~17:00

場所：早稲田大学(新宿)

議題：プログラム決定、夜話決定、企業展示決定、他

(3)展望：部会活動の中心的課題である「人間工学のシステム関連の分野を包括した研究」を続け、電子媒体を駆使しながら、活動する。

# 平成 23 年度事業計画

## 1. 事業計画

{総務担当:八田 一利}

- (1) 一般社団法人日本人間工学会は、平成22年度末に発生した東日本大震災により改めて認識させられた社会の脆弱性を克服し、新しい文化と価値体系を構築するために、人間工学を実践する公益学術団体として寄与することを目指す。
- (2) 第52回大会を河合隆史大会長のもと平成23年6月6日(月)～7日(火)に早稲田大学で開催する。
- (3) 平成23年定時社員総会を平成23年6月6日(月)に早稲田大学において開催し、平成22年度事業報告・収支決算、平成23年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第53回大会を栢原裕大会長のもと平成24年6月9日(土)～10日(日)に九州大学で開催することとし、準備を進める。
- (5) 理事会を年4回以上開催する。
- (6) リニューアルしたホームページのコンテンツの充実、機能の追加をはかり、ホームページを中心に広報活動を推進することで人間工学の普及に努める。
- (7) 機関誌「人間工学」の第47巻2～6号および第48巻1号の計6冊を発行する。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年1回実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回程度実施する。その他、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともにシンポジウム、講演会を開催し、資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当、横断型基幹科学技術研究団体連合担当、人間工学専門家認定機構を設ける。また臨時委員会・担当として、薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会、国際人間工学連合PSE担当、子どもの人間工学委員会、ニーズ対応委員会、安全人間工学委員会、企業の人間工学教育のあり方検討委員会、テレワークガイド委員会、選挙管理委員会、文科省科研費担当、第52回大会担当および第53回大会担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 支部活動および研究部会活動を推進し、その成果を学会員ならびに社会に広める。研究部会は、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、安全人間工学研究部会、3D人間工学研究部会、システム大会部会の計12部会で活動を行う。
- (11) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA理事会(4月2日～3日、グラハムスタウン・南アフリカ)への出席、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会、特にPSE委員会(藤田委員長)への協力をを行う。ESK(大韓人間工学会)/JES合同シンポジウム2011を早稲田大学で開催する。
- (12) ISO/TC159(人間工学)分野の規格の作成・審議および人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (13) 平成23年度功労賞、大島正光賞、研究奨励賞の受賞論文、優秀研究発表奨励賞の受賞者を決定し、各受賞者に授与する。また国際表彰への対応、既存の表彰制度の整備を行うとともに、新設「日本人間工学会論文賞」の受賞候補論文の選考と表彰の準備を進める。
- (14) 横断型基幹科学技術研究団体連合のコンファレンス等の活動に積極的に参加し、学会員への広報に努める。
- (15) 日本学術会議との連携を拡充し、関連学術団体のシンポジウムや講演会等の諸活動に積極的に参加・協力する。
- (16) 学会事務局は、学会内外の情報伝達の要としての役割を果たすとともに、迅速で正確な業務の執行に努め、学会運営の基盤を支える。また、適宜業務内容を見直し、その効率化と経費節減をはかる。

## 2. 委員会・担当活動

### [常設委員会・担当]

#### 2-1. 広報委員会

{委員長：吉武 良治、副委員長：下村 義弘}

- (1)理事会、支部、委員会、研究部会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。
- (2)グッドプラクティスデータベース（GPDB）の取り組みを継続し、さらなる人間工学の実践事例公開を通して認知度向上へ努める。
- (3)人間工学関連リーフレットの更新・配布、学生・企業の架け橋プロジェクトなど推進中の広報活動をさらに発展、推進する。
- (4)平成22年4月に全面的リニューアルを実施したホームページに関しては、ニーズ対応委員会と連携して、コンテンツの充実、機能の追加、そしてホームページの運用プロセスをさらに整備し、軌道にのせるための活動を推進する。

#### 2-2. 編集委員会

{委員長：小松原 明哲、副委員長：三澤 哲夫}

- (1)学会誌「人間工学」の年6号分の通常の編集・発行業務を行う。
- (2)投稿原稿の査読に関して、査読の質を高めつつさらなる効率化と迅速化をはかる。
- (3)人間工学領域発展のための場としての学会誌のあり方について検討し、順次実現する。
- (4)編集委員会のホームページを充実させ、学会員ならびに論文投稿者の利便をはかる。
- (5)その他、編集委員会所掌業務への迅速な対応をはかる。
- (6)平成23年度の編集委員会は、これまで通り奇数月開催を予定し、偶数月には電子編集委員会を開催する。

#### 2-3. 国際協力委員会

{委員長：堀江 良典、副委員長：小谷 賢太郎}

- (1)ESK/JES Joint Symposium 2011, Tokyo, Japan(第52回大会\*早稲田大学)のJES窓口として会員参加への協力
- (2)IEA理事会(4月2~3日)への参加 Grahamstown(South Africa)  
国際協力委員(藤田・鳥居塚委員)がJESからのcouncil memberとして3名分の投票権執行
- (3)国際協力活動およびその他
  - ・IEA アワード申請への協力
  - ・IEA内の各委員会(特にPSE委員会:藤田委員長)への協力
  - ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

#### 2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長：横井 孝志、副委員長：吉武 良治}

- ISO/TC159(人間工学)分野の規格の提案、作成、審議、ならびに人間工学JIS規格の作成、普及・啓蒙のための活動を行う。
- (1)会議：全体会議4回、分科会延べ50回前後開催予定
  - (2)予定されている主な審議項目
    - ・SC1(人間工学の一般原則)
      - ・ISO/FDIS 26800「人間工学 - 人間工学の一般的方法、原則および概念」の審議

- ・ SC3 (人体寸法と生体力学)
    - ・ ISO/NP TR12295 「人間工学 - ISO11228 シリーズ活用のためのガイドライン」の審議
    - ・ ISO/NP TR12296 「介護業務等従事者のためのマニュアルハンドリング」の審議
    - ・ ISO/DIS 15535 「人体寸法データベース構築のための一般的要求事項」の審議
  - ・ SC4 (人間とシステムのインタラクション)
    - ・ ISO9241シリーズ規格「人とシステムのインタラクション関連規格」の審議
    - ・ ISO/CD 11064-4 「コントロールセンターの人間工学設計 - ワークステーションの配置と寸法」の審議
    - ・ ISO/NP TS20282-3 「日用品の使いやすさ - 消費生活製品のための試験方法」の審議
  - ・ SC5 (物理的環境の人間工学、特別な配慮を必要とする人々のための物理環境)
    - ・ ISO/AWI 7726 「温熱環境の人間工学 物理的質の計測のための装置」
    - ・ ISO/NP 16077 「物理環境の人間工学 - 被験者を用いた室内空気質の評価方法」の審議
    - ・ ISO/NP 16418 「温熱環境の人間工学 温熱環境に対する人の動的反応を予測する数学モデル」
    - ・ ISO/AWI 16594 「温熱環境を緩和する作業訓練のためのガイドライン」
    - ・ ISO/AWI 24504 「人間工学 - アクセシブルデザイン - 製品や公共案内における発話時の音圧レベル」
    - ・ ISO/DIS 28802 「物理環境の人間工学 - 環境およびヒトの反応の物理的計測に係る環境調査による評価」
    - ・ ISO/DIS 28803 「物理環境の人間工学 - 特別な要求が必要な人々への国際標準の適用」
  - ・ TC159/WG2 (特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)
    - ・ ISO/TR22411 「高齢者・障害者のニーズに配慮するために製品及びサービスの規格へ ISO/IEC ガイド 71 を適用するための人間工学データとガイドライン」第2版作成
- (3)国際会議予定
- ・ TC159 総会(2012年2月：ブラジル) 他各 SC、WG の会議複数予定

## 2-5. 表彰委員会

{委員長：阿久津 正大、副委員長：矢口 博之}

### (1)委員会開催

委員会を5回開催する。そのほかに随時電子メールで討議を行い、下記の活動を進める。

### (2)活動内容

- 1) 表彰制度の新設、整備等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2) 既存の表彰制度の見直し・整備を継続して行うとともに、広報委員会と連携して人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設を目指す。
- 3) 新設された「日本人間工学会論文賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を進める。
- 4) 第52回大会・社員総会時に平成23年度(第4回)「日本人間工学会功労賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成24年度(第5回)同賞の受賞候補者を選考するとともに、表彰の準備を進める。
- 5) 第52回大会・社員総会時に平成23年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成24年「研究奨励賞」の受賞候補論文を選考するとともに、表彰の準備を進める。
- 6) 第52回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、表彰を行う。また第53回大会における同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 7) 日韓シンポジウム関係者の表彰準備を進め、第52回大会時に表彰を行う。
- 8) 国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼等について対応する。また国際協力委員会と連携し、本学会 HP で各種アワードの紹介・推薦募集等の広報活動及び本学会が候補者を積極的に推薦できる仕組みを整備する。
- 9) 表彰委員会 HP を開設し、表彰に関する広報活動を積極的進める。

## 2-6. 日本学術会議担当

{担当:大須賀美恵子、芳賀 繁、青木 和夫}

### (1) 日本学術会議との連携の拡充

日本学術会議から発信される情報は随時日本人間工学会の HP に掲載するとともに、日本学術会議主催の諸活動に積極的に参加する。

### (2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムへの協力

安全工学シンポジウム 2011 (幹事学会:機械学会、2011年7月7日、8日、機械振興会館) の開催に協力する。

## 2-7. 横断型基幹科学技術研究団体連合担当 {担当:青木 和夫、加藤象二郎、酒井 一博、山本 栄}

(1) 横断型基幹科学技術団体連合のコンファレンス (2011年11月28~29日、石川県能美市) 等の活動に積極的に参加する。

(2) 会誌「横幹」第5巻第2号、第6巻第1号の編集を行う (編集副委員長:青木和夫)

(3) 学会員への広報を積極的に行う。

## 2-8. 人間工学専門家認定機構

{機構長:青木 和夫、副機構長:福住 伸一}

### (1) 資格認定試験を実施する

資格認定試験 (A 方式試験) を年 1 回、筆記試験免除条項の適用 (B 方式試験) を年 1 回実施する。準専門家・人間工学アシスタント試験を年 4 回程度実施する。

A 方式試験:2011年9月9日(金) 東京

### (2) 定期総会、講演会、幹事会を開催する

総会 日時:2011年4月22日(金) 14:00~14:30

会場:中央大学駿河台記念館 320 号室

講演会 日時:2011年4月22日(金) 14:30~15:15

会場:中央大学駿河台記念館 320 号室

講演:申 紅仙 (常磐大学 人間科学部) 演題:「自然災害と人間工学」

緊急意見交換会「今、人間工学専門家と日本人間工学会は何をすべきか」

日時:2011年4月22日(金) 15:30~17:00

会場:中央大学駿河台記念館 320 号室

幹事会 (2 回開催予定)

### (3) 再認定を促進する

### (4) シンポジウムを開催する。

日本人間工学会第 52 回大会 (東京) においてシンポジウム「人間工学専門家の役割と実践」を行う。

(5) 機構ホームページ、会報、学会大会、広告等を活用して会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(6) 人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。

(7) IEA 専門家教育委員会の活動に協力する。

(8) 学会内組織、他学会、他の資格認定組織との連携を行う。

(9) CPE セミナーを開催する。

## [臨時委員会・担当]

### 2-9. 薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会

{委員長:窪田 悟}

- (1)19年度より産官学で実施されている液晶ディスプレイの省電力化に寄与するための人間工学的な調査研究の成果に基づき、家庭における液晶テレビの好ましい視聴条件・視聴環境に関するユーザーとメーカー双方の便益に資するガイドライン策定を目指す。
- (2)23年度 はこれまでの調査研究の成果を具体的なガイドラインにどのようなかたちで反映していくかについて議論し方向性をまとめ、具体的な項目を挙げる。
- (3)できる限り多くのテレビ関連企業に参画を促し、意義と実効性のあるガイドラインのあり方についての議論を深める。

### 2-10. 国際人間工学連合 PSE 担当

{担当:藤田 祐志}

IEA としては、NPO 法人格取得に起因した規則類の整備、President Elect 制度の導入などのガバナンスに見直しなど、重要な課題が山積している。PSE 委員会は、専門家認定制度の国際相互認証、良好事例の教育利用、各国の人間工学教育プログラムにかかわるディレクトリーの見直しを推進するところであるが、いよいよ実質的な成果が求められる段階にあり、引き続き JES の絶大な支援を要請したい。

### 2-11. 子どもの人間工学委員会

{委員長:小松原 明哲 副委員長:江川 賢一}

- (1)平成 22 年度に引き続き、生活者としての子どもを視座に置いた人間工学の研究課題を明らかとする。
- (2)この領域に関心のある有志からなるメーリングリストを組織し、意見交換を行う。
- (3)ホームページを充実する。
- (4)大会の機会などにおいて意見交換と情報発信を行う。

### 2-12. ニーズ対応委員会

{委員長:榎原 毅、副委員長:岩切一幸}

Web サイト等を積極的に活用した人間工学の普及策と情報発信戦略を展開する。理事会、各種委員会・担当、各支部・研究部会などと連携事業を促進し、引き続き下記の活動を実施する。

- (1) 企業における人間工学実務者や学生など、若手人材支援策を引き続き検討、情報発信する。
- (2) 産学官民の協同・連携支援策として、「人間工学の領域・人材・組織・事例を繋ぐリレーショナル・データベース」の整備と提供を行う。
- (3) 「学術戦略プロジェクト」の可能性や展開方法を継続検討しつつ、更なる人間工学領域の研究促進と活性化を図るため、人間工学研究の促進に必要なニーズ分析とその結果に基づく支援方策の検討・展開を行う。
- (4) 国際人間工学連合 / PSE 担当 (藤田裕志) の活動をバックアップする。

### 2-13. 安全人間工学委員会

{委員長:芳賀 繁、副委員長:首藤 由紀}

- (1) 隔月で委員会を開催し、安全問題にかかわる人間工学会の様々な活動に関する提言、助言、実務を行う。
- (2) 安全人間工学研究部会の運営をサポートする。

- (3) 東日本大震災に関連した防災および安全上の諸問題に関して人間工学の立場からの意見をとりまとめる。そのための意見集約方法、意見表明方法について、早急に検討を開始する。

#### 2-14. 企業の人間工学教育のあり方検討委員会 {委員長:酒井 一博、副委員長:易 強}

- (1) 企業における人間工学教育の内容を充実させるため、実践例をさらに積み重ねる。
- (2) 特に、産業現場における安全衛生に関わる人間工学プログラムの開発を実践する。
- (3) 「企業の人材育成プログラム開発委員会」において作成されたシラバスを精査し、企業の人間工学教育に関する具体的な方法論を実践例とともに示す。
- (4) 本委員会の活動は23年度を最終とする。3年間の活動を総括し、企業の人間工学教育のあり方に関する提案を中心とした報告書を作成する。

#### 2-15. テレワークガイド委員会 {委員長:吉武 良治、副委員長:北島 洋樹}

- (1) 平成22年度に引き続いて、テレワークの健全な発展のために、日本人間工学会として取り組むべきこと、今後の方向性などを検討する。平成22年度は限られたメンバーからテレワーク実践の際に、工夫していることや配慮していることを収集・整理したので、さらに対象を広げた調査を検討する。
- (2) 現在公開しているガイドラインの認知度を高める活動などを検討する。
- (3) 日本テレワーク協会など関連団体や有識者と交流し、テレワークの現状や課題などをより深く理解し、本委員会の活動に役立てる。第52回大会では、以下のように学会外の有識者を招聘したシンポジウムを開催予定である。

===== 企画シンポジウム =====

日時: 2011年6月7日(火) 10:00-11:00 (第52回大会)

会場: S会場(早稲田大学国際会議場)

テーマ: テレワークの健全な発展へ向けての人間工学の役割

司会: 北島洋樹(労働科学研究所)

発表1: 「テレワークガイド委員会の活動概要と問題提起」 吉武良治(日本IBM)

発表2: 「テレワークと労働基準法」 中島康之様(社会保険労務士法人)

発表3: 「東日本大震災・計画停電時のテレワーク実施事例」 今泉千明様(日本テレワーク協会)

ディスカッションとまとめ

#### 2-16. 選挙管理委員会 {委員長:堀江 良典}

一般社団法人日本人間工学会定款に規定する代議員及び役員選挙に関する業務を行うため、選挙管理委員会を設置する。

#### 2-17. 文科省科研費担当 {担当:斉藤 進、青木 和夫}

「人間工学」は、文部科学省科学研究費補助金の系・分野・分科・細目表において、生物学及び医歯薬学分野のキーワードとして記載されている。人間工学が本来果たすべき社会的・学術的役割の重要性から、「人間工学」をこれら以外にも分科細目表に採択するよう、学会として積極的に要望することを総会決議している。これに基

づき、平成22年度に実施した内容のフォローアップ等を平成23年度に行う。

- (1) 総合領域の分科に「人間工学」を採択するよう平成22年度に日本学術振興会へ提出した要望につき、文科省担当官等と情報交換を行う。
- (2) ニーズ対応委員会と連携し、学術的側面から人間工学研究を活性化するための具体的な方策を探る。

## 2-18. 第52回大会担当

{担当:河合 隆史}

【開催日】2011年6月6日(月)、7日(火)

【大会会場】早稲田大学 国際会議場(東京都新宿区西早稲田 1-20-14)

【懇親会場】早稲田リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区戸塚町 1-104-19)

- (1) 1件の学会企画、6件の一般企画シンポジウムを行う。
- (2) 2件の特別講演を行う。
- (3) 口頭発表91題、ハイブリッド発表36題の演題を採択した。
- (4) 韓国人間工学会と協力し、第13回日韓シンポジウムを共催する。
- (5) 日韓シンポジウムでは、33題(口頭およびポスター)の演題を採択した。
- (6) 42の学・協会等から協賛の許諾を得た。
- (7) 20件の企業展示の申し込みがあった。
- (8) 大会案内はホームページ(<http://jes2011.jp>)を活用して行う。

## 3. 支部活動

### 3-1. 北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

#### (1) 会議

1) 支部役員会 平成23年7月22日(金) 北海道大学工学部(予定)

- ・平成22年度 支部事業報告
- ・平成22年度 決算報告並びに監査報告
- ・平成23年度 予算案
- ・平成23年度 支部事業計画案

#### (2) 平成23年度支部総会

大会長:吉成哲(北海道立総合研究機構 工業試験場)

日時:平成23年11月12日(土)

場所:北海道立総合研究機構 工業試験場

#### 1) 支部総会議題

- ・平成22年度支部事業報告
- ・平成22年度決算報告並びに監査報告
- ・平成23年度予算案
- ・平成23年度支部事業計画案
- ・平成24年度北海道支部大会開催について

### 3-2. 東北支部

{支部長:北村 正晴}

- (1) 支部講演会 年1~2回開催予定

- (2)支部研究会 年2~3回開催予定
- (3)支部役員会 年3回予定
  - 1)議事：平成23年度事業計画  
支部総会議案および資料作成  
平成23年度支部活動の重点事項
- (4)支部総会
  - 1)日時：未定
  - 2)場所：未定
  - 3)議事：平成23年度役員選出  
平成22年度事業報告および決算報告  
平成23年度事業計画案および事業予算案
- (5)その他
  - 研究交流会記録、講演会記録は原則として文書化してHPに開示する。
  - 支部メーリングリストを活用して、支部所属会員との双方向コミュニケーションの一層の強化を図る。
  - なお、本年度は、地震・津波被災からの復旧状況を勘案しつつ弾力的に活動を進める計画である。

### 3-3. 関東支部

{支部長:八田 一利}

- (1)第41回関東支部大会
  - ・開催日:平成23年12月10日(土)~11日(日)
  - ・会場:芝浦工業大学豊洲キャンパス
  - ・大会長:大倉典子 先生
- (2)支部委員会 年2回開催予定
- (3)基礎技法講習会、シンポジウム、卒業研究発表会、企業・研究機関交流、見学会などを開催予定
- (4)ニューズレターの発行
- (5)支部役員選挙

### 3-4. 東海支部

{支部長:横森 求}

- (1)平成23年度一般社団法人日本人間工学会東海支部総会開催
  - ・開催日時:平成23年5月14日(土) 15:45-16:15
  - ・場所:名城大学名駅サテライト多目的室
  - ・懇親会:17:45 - 19:45 名城大学名駅サテライト・ラウンジ
- (2)講演会の開催
  - ・開催日時:平成23年5月14日(土) 16:30-17:30
  - ・場所:名城大学名駅サテライト多目的室
  - ・講演:村本 淳子氏 三重県立看護大学学長
  - ・演題:「看護学における人間工学の重要性」
- (3)平成23年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催
  - ・開催日:2011年10月29日(土)
  - ・開催場所:三重県立看護大学
  - ・大会長・実行委員長:斉藤 真 三重県立看護大学
  - ・特別講演:未定

- ・学生支援特別企画「企業との架け橋 - 東海支部プログラム」
- ・一般講演

(4)講演会の開催

(5)その他

- 1)見学会等の開催
- 2)他学会との協賛
- 3)役員会の開催(2 ヶ月に1 回程度 / メール審議を含む)

### 3-5. 関西支部

{ 支部長:萩原 啓 }

(1)企画・行事等

- 1)見学会 平成 23 年 10 月頃
- 2)支部大会  
開催日:平成 23 年 12 月 10 日(土)~11 日(日)  
会 場:神戸大学  
大会長:林 祐司先生、事務局長:村井 康二先生
- 3)講演会等 平成 24 年 3 月頃(支部総会と併催)

(2)会議・総会等

- 1)第 1 回企画幹事会 平成 23 年 6 月頃
- 2)第 1 回評議員会役員会合同会議 平成 23 年 12 月 10 日(土)(支部大会と併催)
- 3)支部長、副支部長、評議員選挙 平成 23 年 12 月~平成 24 年 1 月
- 4)第 2 回企画幹事会 平成 24 年 1 月頃
- 5)選挙管理委員会 平成 24 年 2 月頃
- 6)第 2 回評議員会役員会合同会議 平成 24 年 3 月頃(総会と併催)
- 7)支部総会 平成 24 年 3 月頃
- 8)優秀発表賞授賞式(支部総会時)

### 3-6. 中国・四国支部

{ 支部長:村田 厚生 }

(1)理事会開催(2 回程度)

- 第 1 回:2011 年 11 月 26 日,場所:下関市生涯学習プラザ
- 第 2 回:2012 年 3 月中旬-下旬,場所:未定

(2)支部大会開催

- 第 44 回日本人間工学会中国・四国支部大会(九州・沖縄支部との合同開催)
- 開催日:2011 年 11 月 26 日(土),場所:下関市生涯学習プラザ
- 大会長:中村誠先生(水産大学校)

(3)支部講演会開催

(4)支部表彰の実施

(5)支部役員選挙の実施

(6)その他

### 3-7.九州・沖縄支部

{支部長:長谷川 徹也}

#### (1)活動計画

##### 1)第32回支部評議員会

・開催日:平成23年秋期開催予定

・会場:未定

##### 2)第32回支部大会および会員総会

中国・四国支部と合同開催

・開催日:平成23年11月26日(土)

・会場:下関市生涯学習プラザ

・大会長:中村 誠(水産大学校)

##### 3)「九州人間工学第32号」の発送

#### (2)その他

## 4.研究部会活動

### 4-1.医療安全研究部会

{部会長:土屋 文人}

<H19.4.1~5年以内>

#### (1)活動テーマ

我が国における医療安全への人間工学分野の研究及び関係者に対する啓発活動は、この10年余の間に、医療機関や関連企業及び行政を含め定着しつつある。しかしながら医療政策のまずさから医療崩壊が発生し、慢性化した人手不足に起因したエラー、あるいはIT導入によるコンピュータシステムとのインターフェースのまずさに起因したエラーの発生等、医療は極めて厳しい環境下におかれている。人間工学的な研究も全体的には増加しているが、未だ基盤整備段階にあるといえる。昨年度製薬企業を対象とした人間工学入門講習会を開催したが、今年度は対象を拡大し、製薬企業のみならず医薬品の包装を行っている印刷会社を含めて「医療分野における安全文化の定着化」を目標に、医療機関や関連企業に向けた啓発活動を行う予定である。

#### (2)手段・方法

##### 1)医薬品関係

横幹連合の医薬品インターフェース調査研究会と連携をして、製薬企業、印刷企業を対象とした医薬品分野における人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う。今年度は特に後発メーカーに対して啓発活動を行うことにより、人間工学的配慮がされた製品の普及を図る。

##### 2)医療機器関係

医薬品に対して遅れが目立つ医療機器の添付文書等の情報提供資料に関する人間工学研究の支援の方策について検討を行うとともに、可能であれば医療機器関係企業への講習会等の開催を行いたい。

#### (3)期待される成果

医薬品企業における人間工学の認知度は二極化の傾向にある。我が国の医療政策上後発品使用推進が図られていることから、後発医薬品メーカーを中心に人間工学的視点の重要性の啓発により、各種工夫された製品が普及することが考えられる。これにより、結果的に当該分野に関心の薄い先発メーカーも人間工学的検討を加えざるを得なくなると思われる。

診療報酬上の見直しにより、病院については安全文化の定着は見られるものの、依然として厳しい環境にあ

る医療の世界において、医薬品や医療機器の製品の改善等による医療スタッフへの側面支援を図る。

#### 4-2. 衣服人間工学部会

{ 部会長: 高部 啓子 }

<H19.4.1~5年以内>

##### (1) 研究テーマ

平成14年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきた。本年も昨年に引き続き、衣生活における衣服の設計条件からその機能性や安全性などの評価方法に関わる諸問題について研究を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

##### (2) 例会の開催 年2~3回程度開催予定。

##### (3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状をとらえ、最新の研究などの情報収集や勉強会を行い、情報発信することで、アパレル産業における衣服設計生産の現場で衣服人間工学が活用され普及することが期待される。

#### 4-3. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長: 山本 栄 }

<H19.4.1~5年以内>

##### (1) HCI2011で“New Prospective of the research for Tactile & Haptic Interactions”というセッションを企画し、7件の発表を行う予定、

また海外の触覚インタラクションの研究者との交流を目指す。

##### (2) 12月に関東支部会でシンポジウムを計画

##### (3) 第3回触覚インタラクション部会の研究会を予定、これまでの研究会の発表をまとめた冊子の発行。

##### (4) 部会のホームページのリニューアル。

##### (5) その他

#### 4-4. 航空人間工学部会

{ 部会長: 田中 敬司 }

<H20.4.1~5年以内>

##### (1) 研究目的

本年度は「事故を未然に防止するために」をテーマとし、航空事件事例から得たヒューマン・マシン インターフェースに関わる問題、人間特性に関わる問題、事故防止対策・教訓等及び進化を続ける電子装備システムの動向を分析検討し、研究例会において会員向けに情報を発信し活発に討議し意見交換を行うと共に、安全について広く訴求する。

##### (2) 方法・手段

###### 1) 研究例会の開催

日時: 平成23年7月8日(金) 10:00-17:00

場所: 国立オリンピック青少年記念センター、センター棟 101号室

###### 【予定分析事例】として

- 1) 着陸時の安全性向上のためのGBAS(\*1)への取組み
- 2) 電子装備システムの拡充とパイロット訓練の充実
- 3) 回転翼・固定翼機の安全装備の紹介や訓練への取組み

【予定特別講演例】として

将来の航空交通システムに関する長期ビジョン(CARATS(\*2))への対応

\*1 GBAS : Ground-Based Augmentation System

\*2 CARATS: Collaborative Actions for Renovation of Air Traffic Systems

2)施設見学会の実施

下期に施設見学会を計画・実施する。

3)部会ホームページの運営

インターネットを使った部会ホームページを活用して当研究部会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員からの参加申し込みにも活用する。本年度は、より質の高い内容の掲載し充実を図る。

4)委員会・幹事会の開催

適宜委員会及び幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うとともに、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

5)例会資料の電子ファイル化の継続

昨年同様、本年度開催される例会資料をCD-ROM化し、社団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈し、一般の供覧に提供する。なお、講演者の承諾を得られたものについてのみ実施する。

(3)期待される成果

航空安全の推進に関わる官・民・学および諸外国をも含めた多くの組織が関わっているため、これらの関係者が交流し討議を重ね、情報を共有する場を当研究部会が提供することにより、航空人間工学の知見獲得が可能となる。また、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

## 4-5.アーゴデザイン部会

{ 部会長：上田 義弘 }

<H20.4.1~5年以内>

(1) 活動テーマ：「これからのHCD (Human Centered Design) を考える」

- クラウド、サステナブル、BOP 等、新たな時代に向けて -

1) 具体的な活動

今年度は昨年度の検討結果を踏まえ、さらに ICT のクラウド化、安全で安心できるサステナブルな社会への動き、BOP の視点等、新たな社会の動きや多様化する人々の価値観を広く総合的に捉え、これからのHCD のあり方を深く探求していく。具体的には、産業界からの参加が多い部会特性を生かし、研究会やWG 活動等を通じて、様々な見識の人々の参加により、これからのHCD を考える議論を深めていく予定である。

この活動に加え、会員相互の情報交換と部会活動の広報手段として、部会の Web サイトをより一層充実させるための改善活動を実施する予定である。

2) ワーキンググループの活動

ビジョン提案型デザイン手法ワーキンググループでは、昨年度計画した出版に向けての活動を加速させる。今期は、SIG 会員等の外部協力者との連携を深め、事例の収集や手法のまとめを行い、出版を達成する予定である。マザーロードマップワーキンググループでは、活動成果を集約し、第一次のまとめを実施する予定である。加えて本年度より、当部会 Web サイトの改善に着手するために、アーゴデザインサイト改善ワーキンググループを組織する。

3) 独自ドメイン[ergo-design.org]の Web サイトによる広報活動の充実

今期は、上記の通り、Web サイトの改善、充実化を進め、広報活動の強化を図る予定である。また、部会員との連絡手段としてのメーリングリストネットワークの活用と SIG メーリングリスト等の運用もより一層強化したい。

4) 期待される成果

「ビジョン提案型デザイン手法」の出版により、新しい人間工学方法論の試みを広めることができる。さらに、

マザーロードマップの考え方を提案することで、将来の人間生活を考えるための基盤を提供することができる。そして、次世代HCDのあり方を議論することで、今後のアーゴデザイン研究の向かうべき方向性を定めることができる。

## (2)活動予定

- 4月 幹事会、ロードマップWGセッション、サイト改善WGセッション
- 5月 第52回全国大会部会シンポジウム準備、ビジョンデザイン方法論WGセッション
- 6月 第52回全国大会部会シンポジウム、テーマ「これからのHCDを考える」  
幹事会、ロードマップWGセッション、サイト改善WGセッション
- 8月 コンセプト事例発表会、ビジョンデザイン方法論WGセッション
- 9月 幹事会、ロードマップWGセッション、サイト改善WGセッション
- 10月 見学会、ビジョンデザイン方法論WGセッション、
- 11月 幹事会、ロードマップWGセッション、サイト改善WGセッション
- 12月 関東支部大会シンポジウム開催  
関西支部大会シンポジウム開催  
幹事会、ビジョンデザイン方法論WGセッション
- 1月 幹事会、ロードマップWGセッション、サイト改善WGセッション
- 2月 幹事会、ビジョンデザイン方法論WGセッション
- 3月 合宿研究会、総会、幹事会

## 4-6. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長: 山下 利之 }

<H20.4.1~5年以内>

### (1)目的

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から議論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供することを目的とする。さらに、この領域の優秀な若手研究者を育成することを目指している。

### (2)手段・方法

感性の主体である人間の感覚、知覚、感情、認知のメカニズム、測定・評価方法、数理モデルに関する先端的な研究を行っている研究者を招いて講演会を年3回、さらに活発な活動を行っている研究機関への見学会を年数回企画している。それらを通して、部会員の知識の幅を広げるとともに、研究者間の交流も盛んにしていく。昨年度は、日本知能情報ファジィ学会関東支部とのジョイントの講演会を開催したが、今年度も関連する諸学会との連携を深めていきたい。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、システム大会や人間工学会関東支部大会などで、大学院生や卒業論文を執筆した学部生などが発表する機会を積極的に作り出していきたい。

### (3)期待される効果

講演会や各種見学会を通じて新しい知識や手法を知るとともに、手法の会得やその応用を目的とした各種研究会の実施により、若手研究者への啓発や本領域の研究者の裾野を増やすことが期待される。さらに、感性情報処理と官能評価手法についての理解が広まることにより、工学の様々な分野で人間理解が進み、学会における研究活動も盛んになることが期待できる。

#### 4-7. 看護人間工学部会

{ 部会長：樋之津 淳子 }

<H20.4.1～5年以内>

##### (1) テーマ

より安全で安楽な根拠ある看護技術や看護器機・用具の開発、QOLの向上に向けた環境の提案、快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境などの研究成果を発信する。

##### (2) 手段・方法

###### 1) 第19回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会の開催

平成23年9月3日(土)に森ノ宮医療大学保健医療学部において村上生美教授が主催し、第19回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を開催する予定である。一般演題10題を目標に部会員に呼びかけ、参加を促す。

###### 2) 第19回システム連合大会への参加

第19回システム連合大会幹事会に看護人間工学部会からも引き続き参加する。部会員に大会での演題発表、参加を呼びかける。

###### 3) 日本人間工学会誌に部会から論文を投稿するよう呼びかける。

###### 4) 日本人間工学会第52回大会に参加するよう呼びかける。

###### 5) 看護人間工学研究誌第12巻を発行(平成23年3月)し、部会員に送付する。

###### 6) 看護人間工学部会のホームページの英語版を含めて内容を充実させる。

##### (3) 期待される成果

###### 1) 第19回看護人間工学部会 総会・研究会への発表、参加者を昨年より増やす。

###### 2) 日本人間工学会第52回大会、第19回システム連合大会への発表、参加人数を増やす。

###### 3) 看護人間工学部会、人間工学会への入会者を増やす。

###### 4) 部会員による「人間工学」、「看護人間工学研究誌」の投稿を増やす。

#### 4-8. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長：平沢 尚毅 }

<H21.4.1～5年以内>

##### (1) 平成23年度研究部会テーマ

今年度のテーマとして、社会復興を目指した「社会基盤における情報通信技術の応用に対する人間工学の可能性と課題」について探求してゆく。

##### (2) 活動内容(手段・方法)

###### 1) シンポジウム(あるいはワークショップ)の開催

社会基盤における情報通信技術に対する人間工学の応用に関するシンポジウムを開催する。特に、今年度は地域社会における応用に関するものを検討する。

###### 2) 「情報システムと社会基盤」研究会への協賛

情報処理学会の「情報システムと社会基盤」研究会の研究発表会への協賛を検討する。

###### 3) HCI 2011におけるセッションへの協力

2011年7月9日から4日に米国オーランドで開催されるHCI2011でのセッションでの発表に協力する。

###### 4) 出版計画

部会の成果を出版する計画を今年度も継続して検討する。そのために、研究部会のこれまでの実績を整理する。

###### 5) 部会運営の方法に関する検討

部会運営を円滑に実施するためにの情報環境を検討する。それによって、研究会部会の審議を効率的に進める。

##### (3) 期待される成果

安全、安心な社会を復興するための社会の情報技術基盤のあり方を構想するにあたり、人間工学のアプローチがどこまで貢献できるかを考察する。それによって、これまで以上に、政策へ提言できる可能性が大きくなる。

#### 4-9.聴覚コミュニケーション部会

{部会長:江袋 林蔵}

<H21.4.1~5年以内>

##### (1)テーマ 人間工学における聴覚研究のミッション

概要 平成23年度は、第2会期第3年次に当たる。Ergonomicsの分野における聴覚を中心とした独自の研究領域の探索を具体的に考えた第2会期相第2年度の活動に続き、引き続き既成学会の活動に倣いつつ、アゴノミクス研究分野における独自の領域開拓を図ることは今年度も変わらないが、別の角度から海外との交流を図ることが課題となる。

##### (2)聴覚研究のミッション研究の手段

- 1)研究会の開催・シンポジウムの開催・他学会との交流・EUとの情報交流
- 2)幹事会の開催
- 3)ニュースレターの発行

##### (3)方法

平成22年度展望を踏まえ前年度に準じて活動するが、前年度幹事会議決のDr.Helmut Strasser (University of Siegen / 前ドイツ語圏 Ergonomics Society 会長)を、JES AE部会として招聘し第5回AEG研究会を開催する計画になっている。また、音響学会聴覚研究会が九州で開催される場合は共催を予定すると共に、JESシステム大会部会に参加しJES内他部会との交流を図る。

##### (4)期待される成果

前年度の成果を踏まえ、内外における研究者情報交流の促進により聴覚研究のErgonomics領域での位置づけを模索する。

#### 4-10.安全人間工学研究部会

{部会長:芳賀 繁}

<H22.4.1~5年以内>

##### (1)活動目的

安全人間工学研究部会は、平成22年度に引き続き、安全に関わる人間工学の研究の情報交換と、様々な分野の安全研究者、実践者と問題点を討議し、広くその成果を学会員ならびに社会に広めることを目的として活動を行う。

##### (2)活動内容

- 1)日本認知心理学会安全心理学研究部会との共催で、研究会を5回程度東京で開催する。
- 2)首都圏以外の地域でも2回程度研究会を開催する。

#### 4-11.3D人間工学研究部会

{部会長:河合 隆史}

<H22.6.1~5年以内>

##### (1)目的

近年の立体(3D)映画の世界的な流行に伴い、その波及効果として3Dテレビや3Dゲーム、3Dスマートフォンなどが、急速に家庭に入ってきている。しかしながら、3Dの人間工学的な側面、例えば視聴に伴う疲労をはじめ、長時間・長期間の利活用による影響や、年齢層といったユーザの属性との関連など、未知な点が多い。そこで本研究部会では、ユーザの観点による3D研究の情報共有や、関連する多様な分野の研究者や実務者との交流・討議などを通して、その成果を学会員および広く社会へ還元することを目的として、平成22年度より活動を推進している。

(2)手段・方法・期待される成果

平成 22 年度に引き続き、コンスタントに研究会（3 回以上のセミナー、シンポジウムなど）を開催し、当該分野の最新の知見を共有する場を形成する。平成 23 年度は、多様な切り口、視点からの議論の拡大を目標とし、セミナーやシンポジウムを企画していく。これにより、3D の人間工学的な要件に関するソリューションを導出し、安全かつ快適な 3D の普及に貢献していくことが期待される。

#### 4-12. システム大会部会

{ 部会長: 富田 豊 }

(1)本会の目的

システム部会は、人間をシステム論的立場から研究する部会であり、毎年 3 月中旬に卒研究生を中心に研究成果を発表している。卒研究生は、日本人間工学会全国大会（毎年 6 月開催）や支部大会開催の時期ではまだ研究成果がまとまっていない状態なので、3 月中旬に開かれる本部会は、社会に巣立つ卒研究生にとって重要な発表の場である。本部会の発表会は「システム大会」と称し、すでに 18 回開催されている。2 泊 3 日の開催で、学生や教員や研究者も同じ宿舎に泊まりこむことで、他大学の教員や研究者と議論ができるため学生達に好評である。

(2)活動の内容

平成 22 年度（第 19 回大会）は東日本大震災の影響で開催できなかったため、23 年度は規模を大きくして開催する予定である。そのために、数回の幹事会（教員、研究者）と 3 月中旬の第 19 回人間工学システム大会を予定している。

日本人間工学会 2011 年度 委員会/担当等一覧

委員会/担当名	担当・委員長・副委員長等	活動のポイント等
常設委員会・担当(長期的及び継続的に実施する事業)		
総務担当	八田一利、外山みどり	学会運営の執行管理
財務担当	三林洋介、岡田 明	財務管理と経費節減、学会財政に関する中長期計画等の提案
広報委員会	吉武良治、下村義弘	HP の運用推進、GPDB による実践事例公開、架け橋プロジェクト推進
編集委員会	小松原明哲、三澤哲夫	学会誌の編集と発行、査読の効率化と迅速化、HP 充実と利便性向上
国際協力委員会	堀江良典、小谷賢太郎	国際人間工学連合・日韓共同シンポジウム等、国際協力活動の推進
ISO/TC159 国内対策委員会	横井孝志、吉武良治	ISO/TC159 に関わる規格の提案・作成・審議、JIS 規格案作成と普及
表彰委員会	阿久津正大、矢口博之	表彰制度の見直しと整備、各賞受賞候補者の選考、HP 開設と広報
日本学会会議担当	大須賀美恵子、芳賀 繁、青木和夫	学会会議との連携拡充及び安全工学シンポジウム 2011 への協力
横断型基幹科学技術研究団体連合担当	青木和夫、加藤象二郎、酒井一博、山本栄	横幹コンファレンス、会誌「横幹」編集、産学連携、学会員への広報
人間工学専門家認定機構	青木和夫、福住伸一	認定・再認定実施、講演会、シンポジウム開催、GPDB や IEA へ協力
臨時委員会・担当(目標と期間を定め、成果を組織的に活用する事業)		
薄型テレビの視聴に関する人間工学ガイドライン検討委員会	窪田 悟	液晶テレビの省電力化及び視聴条件等に関するガイドライン策定
国際人間工学連合 PSE 担当	藤田祐志	IEA における CPE 制度相互認証、GPDB 教育利用等への JES 支援
子どもの人間工学委員会	小松原明哲、江川賢一	生活者としての子どもを視座を置いた研究課題の明確化と情報発信
ニーズ対応委員会	榎原 毅、岩切一幸	Web による情報発信戦略展開と産学官民 RDB 整備、IEA/PSE 支援
安全人間工学委員会	芳賀 繁、首藤由紀	関連研究部会との連携、東日本大震災への意見集約と表明等
企業の人間工学教育のあり方検討委員会	酒井一博、易 強	企業の人間工学教育実践例の集積、3 年間を総括した報告書作成
テレワークガイド委員会	吉武良治、北島洋樹	テレワークの健全な発展に資する課題整理と企画シンポジウム開催
選挙管理委員会	堀江良典	一般社団法人日本人間工学会代議員及び役員選挙の実施
文科省科研費担当	斉藤 進、青木和夫	科研費分科細目表へのフォローアップ、研究活性化を目指す提案
第 52 回大会担当	河合隆史	2011 年 6 月 6～7 日に大会開催
第 53 回大会担当	柄原 裕	2012 年 6 月 9～10 日に大会開催